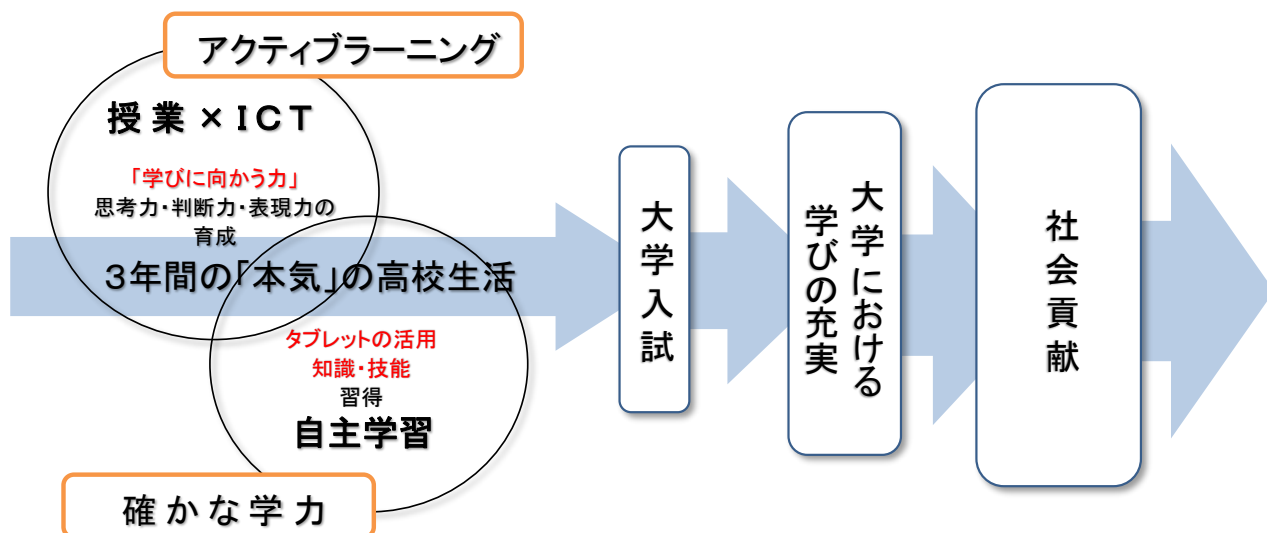


令和6年度科目履修案内 第3学年 目次

		頁
大宮北高校「本気の学習」		1
令和4年度入学生教育課程表(普通科・理数科)		2
<各教科から>	コース・科	
1 国語科	論理国語	4
	古典探求	6
	文学国語	12
	観点別評価	13
2 地歴科	地理総合	15
	日本史探求	17
	世界史探求	20
	地理探求	22
	観点別評価	25
3 公民科		28
	政治・経済	29
	倫理	30
	公共探求	31
	観点別評価	32
4 数学科		35
	数学探究	37
	数学Ⅲ	38
	SS理数数学特論	39
	観点別評価	40
5 理科	生物	42
	SS理数生物	44
	化学探究	46
	化学	48
	SS理数化学	50
	物理	53
	SS理数物理	54
	地学基礎	55
	観点別評価	56
6 保健体育科	体育	63
	スポーツⅡ	66
	観点別評価	69
7 芸術科	演奏研究	72
	クラフトデザイン	74
	実用の書	76
	観点別評価	78
8 英語科		81
	論理・表現Ⅲ	83
	英語コミュニケーションⅢ	84
	英語特講	85
	観点別評価	86
9 家庭科	保育基礎	87
	観点別評価	88
10 STEAMS TimeⅢ		89
	観点別評価	91

# 大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。

どんな「本気」に取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？

多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。

「本気の学習」を大切に、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。

大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

## 授 業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。

大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。

自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。

授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。

希望の大学に進学できる、大学入学後にも生きる「力」がつかます。

ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成

「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

## 自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。

社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向かった努力が必要です。

通学時間や部活動等によって個々の時間の使い方は変わります。

個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。

3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、

個々の日々の学習計画を構築していきましょう。

苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。

学習計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。

理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長

海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

様式2－3(令和4年度入学生用)

令和6年度 教育課程表(理数科)

各教科・科目等			標準 単位	1 年	2 年	3 年	計	
教 科		科 目						
各学科に共通する 各教科・科目	国語	現代の国語	2	2			11	
		言語文化	2	2				
		論理国語	4		2	2		
		古典探究	4		2	1		
	地理歴史	歴史総合	2		3		6	
		地理総合	2			3		
	公民	公共	2	2			2	
	保健体育	体育	7～8	2	3	2	9	
		保健	2	1	1			
	芸術	音楽Ⅰ	2	● 2			2	
		美術Ⅰ	2	● 2				
		書道Ⅰ	2	● 2				
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			16	
		英語コミュニケーションⅡ	4		3			
		英語コミュニケーションⅢ	4			4		
		論理・表現Ⅰ	2	2				
論理・表現Ⅱ		2		2				
論理・表現Ⅲ		2			2			
家庭	家庭基礎	2	2			2		
主として専門学科において 開設される各教科・科目	S S 理数	SS理数数学Ⅰ	5～7	6			48	
		SS理数数学Ⅱ	7～9		6			
		SS理数数学特論	4～6			7		
		SS理数生物	6～8	2	2	● 5		
		SS理数化学	6～8	2	3	4		
		SS理数物理	6～8	2	2	● 5		
		STEAMS TimeⅠ	2	2				
		BEST CLaSS	1		1			
		STEAMS TimeⅡ	2		2			
		STEAMS TimeⅢ	2			2		
小 計			32	32	32	96		
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3		
総合的な探究の時間			3～6	1	1	1	3	
合 計 (週当たりの授業時数)			33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)		
備 考			1 年 ●印から1科目選択 3 年 ●印から1科目選択 1 年 「SS理数数学Ⅰ」 S S H指定校として「理数数学Ⅰ」（6単位）の代替 2 年 「SS理数数学Ⅱ」 S S H指定校として「理数数学Ⅱ」（6単位）の代替 3 年 「SS理数数学特論」 S S H指定校として「理数数学特論」（7単位）の代替 1，2，3 年 「SS理数生物」 S S H指定校として「理数生物」（9単位）の代替 1，2，3 年 「SS理数化学」 S S H指定校として「理数化学」（9単位）の代替 1，2，3 年 「SS理数物理」 S S H指定校として「理数物理」（9単位）の代替 1 年 「STEAMS TimeⅠ」 S S H指定校として情報Ⅰ（2単位）の代替 2 年 「STEAMS TimeⅡ」 S S H指定校として理数探究（2単位）の代替 2 年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーションⅡ」を1単位分減単				・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位  ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位	

(令和4年度入学 第3学年)

理数科

さいたま市立大宮北高等学校 全日制の課程  
整理番号S49

様式1－3(令和4年度入学生用)

令和6年度 教育課程表(普通科)

各教科・科目等			標準 単位	1 年	2 年	3 年			計
教 科	科 目	A 1				A 2	B		
各 学 科 に 共 通 す る  各 教 科 ・ 科 目	国  語	現 代 の 国 語	2	2				1 2 ～ 1 8	
		言 語 文 化	2	2					
		論 理 国 語	4	2	3	3	2		
		古 典 探 究	4	3	3	4	1		
		文 学 国 語	4		3				
	地 理  歴 史	地 理 総 合	2	2				5 ～ 1 4	
		歴 史 総 合	2		3				
		日 本 史 探 究	3			● 5	● 5		
		世 界 史 探 究	3			● 5	● 5		
		地 理 探 究	3				○ 4		○ 3
	公 民	公 共 理 学	2	2				2 ～ 6	
		倫 理 学	2			○ 2	○ 2		
		政 治 ・ 経 済	2			2	○ 2		
		(学) 公 共 探 究	3				○ 3		
	数  学	数 学 I	3	3				1 1 ～ 1 8	
		数 学 II	4		4				
		数 学 III	3				4		
		数 学 A	2	2					
		数 学 B	2		2				
		数 学 C	2				3		
		(学) 数 学 探 究	2～4			○ 2	4		
	理  科	物 理 基 礎	2		2			1 0 ～ 2 0	
		物 理	4				● 7		
		化 学 基 礎	2	2					
		化 学	4		4		3		
		生 物 基 礎	2	2					
		生 物	4				● 7		
		地 学 基 礎	2				▲ 3		
		(学) 化 学 探 究	3				▲ 3		
	保 健 体 育	体 育	7～8	3	3	2	2	2	1 0
		保 健	2	1	1				
	芸  術	音 楽 I	2	● 2				2	
		美 術 I	2	● 2					
		書 道 I	2	● 2					
		(STEAMS Time II 音楽)			(2)				
		(STEAMS Time II 美術)			(2)				
(STEAMS Time II 書道)				(2)					
外  国  語	英 語 コミュニケーション I	3	3				1 6 ～ 1 9		
	英 語 コミュニケーション II	4		3					
	英 語 コミュニケーション III	4			4	4			
	論 理 ・ 表 現 I	2	2						
	論 理 ・ 表 現 II	2		2					
	論 理 ・ 表 現 III	2			2	2			
	(学) 英 語 特 講	3			3				
家 庭	家 庭 基 礎	2	2				2		
主として専門学科において 開設される各教科・科目	家 庭	保 育 基 礎	2～6			▲ 2	0 ～ 2		
	音 楽	演 奏 研 究	2～6			▲ 2			
	美 術	クラフトデザイン	2～10			▲ 2			
	書 道	実 用 の 書 2608	2～4			▲ 2			
	体 育	ス ポ ー ツ II	2～12			▲ 2			
	SS 理 数	STEAMS Time I	2	2				6	
		BEST CLaSS	1		1				
		STEAMS Time II	2		2				
STEAMS Time III		1			1	1	1		
小 計				32	32	32	32	32	96
特別活動	ホームルーム活動			1	1	1	1	1	3
総合的な探究の時間				1	1	1	1	1	3
合 計				33	33	33	33	33	99
(週当たりの授業時数)				(34)	(34)	(34)	(34)	(34)	(102)
備 考			1 年 ●印から 1 科目選択 3 年 (A 1) ●、○、▲印からそれぞれ 1 科目選択。 (A 2) ●、▲印からそれぞれ 1 科目選択 ○印の選択は以下の (ア) または (イ) を選択する。 (ア) 地理探究を選択。(イ) 倫理、政治・経済を選択。 ( B ) ●、○印からそれぞれ 1 科目選択。 1 年 「STEAMS Time I」 S S H 指定校として情報 I (2 単位) の代替 2 年 「STEAMS Time II」 S S H 指定校として課題研究の内容の選択に応じ、 理数探究、音楽 II、美術 II、書道 II (2 単位) の代替 2 年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーション II」を 1 単位分減単						・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位  ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位

令和6年度 年間学習計画表（A）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
論理国語		3	高等学校 論理国語 〔第一学習社〕	『新訂総合国語便覧』（第一学習社） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『読解を深める現代文単語』（桐原書店） 『共通テスト+センター試験 国語過去問題』（尚文出版）
【到達目標】			①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
【学習上の留意点】			①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。	
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	評論（七） ○言語が見せる世界  評論（八） ○いのちのかたち		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	評論（九） ○リスク社会とは何か  評論（九） ○コスモポリタニズムの可能性		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	評論（十） ○目に見える制度と見えない制度  評論（十一） ○現代日本の開化		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 学習活動に意欲的に取り組めたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	共通テスト対策問題演習		以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語事項に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 筆者の主張を理解する問題 <input type="checkbox"/> 実用的な文章の問題
1月	3学期	入試対策問題演習		同上

令和6年度 年間学習計画表（理数科・B）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
論理国語		2	高等学校 論理国語 〔第一学習社〕	『新訂総合国語便覧』（第一学習社） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『読解を深める現代文単語』（桐原書店） 『文学国語セレクション』（東京書籍） 『共通テスト+センター試験 国語過去問題』（尚文出版）
【到達目標】			①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
【学習上の留意点】			①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。	
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	評論（七） ○言語が見せる世界  評論（八） ○いのちのかたち		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	評論（九） ○リスク社会とは何か  文学国語 ○舞姫		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	評論（十） ○目に見える制度と見えない制度  評論（十一） ○現代日本の開化		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	共通テスト対策問題演習		以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語事項に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 筆者の主張を理解する問題 <input type="checkbox"/> 実用的な文章の問題
1月	3学期	入試対策問題演習		同上

令和6年度 年間学習計画表（A1）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
古典探究		3	精選 古典探究 (古文編・漢文編) [東京書籍]	『常用国語便覧』(第一学習社) 『三訂版Key&Point古文単語330』(いっずな書店) 『改訂三版完全マスター古典文法』(第一学習社) 『漢文必携 五訂版』(桐原書店) 『共通テスト+センター試験 国語過去問題』(尚文出版)
【到達目標】			<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	
【学習上の留意点】			<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p> <p>④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。</p>	
月	テスト	進度(単元)		チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	<div>古</div> <p>○説話2 発心集「蓮花城、入水のこと」 ○日記2 紫式部日記「日本紀の御局」</p>		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<div>漢</div> <p>○思想3 諸子百家「能近取譬」「無恒産無恒心」 「侵官之害」</p>		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
6月 ～ 7月	1学期 期末	<div>古</div> <p>○評論 源氏物語の小櫛「もののあはれの論」 ○作り物語3 落窪物語「姫君の苦難」</p>		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<div>漢</div> <p>○白楽天と日本文学 白楽天「長恨歌」</p>		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
9月 ～ 10月	2学期 中間	<div>古</div> <p>○作り物語2 源氏物語(二)「須磨の秋【須磨】」 ○歴史物語2 大鏡(二)「三船の才」</p>		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<div>漢</div> <p>○史記2 荊軻伝 「風蕭蕭兮易水寒」「図窮而匕首見」</p>		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)

11月 ～ 12月	2 学期 期末	<div>古</div> <p>○作り物語 2 源氏物語(二)「唐猫の綱【若菜上】」 ○歴史物語 2 大鏡(二)「道長、伊周の競射」</p>	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<div>漢</div> <p>小説 2 「桃花源記」</p>	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）
		<p>入試過去問題演習 共通テスト対策問題演習</p>	<p>以下を意識して取り組めたか。</p> <input type="checkbox"/> 言語に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 作品や文学史に係る問題
1 月	3 学期	入試過去問題演習	同上



令和6年度 年間学習計画表（A2）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
古典探究		4	精選 古典探究 (古文編・漢文編) [東京書籍]	『常用国語便覧』(第一学習社) 『三訂版Key&Point古文単語330』(いっずな書店) 『改訂三版完全マスター古典文法』(第一学習社) 『漢文必携 五訂版』(桐原書店) 『共通テスト+センター試験 国語過去問題』(尚文出版)
【到達目標】			①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
【学習上の留意点】			①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。	
月	テスト	進度(単元)		チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	<div>古</div> ○説話2 発心集「蓮花城、入水のこと」 ○日記2 紫式部日記「日本紀の御局」		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<div>漢</div> ○思想3 諸子百家「能近取譬」「無恒産無恒心」 「侵官之害」		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
6月 ～ 7月	1学期 期末	<div>古</div> ○評論 源氏物語の小櫛「もののあはれの論」 ○作り物語3 落窪物語「姫君の苦難」		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<div>漢</div> ○白楽天と日本文学 白楽天「長恨歌」		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
9月 ～ 10月	2学期 中間	<div>古</div> ○作り物語2 源氏物語(二)「須磨の秋【須磨】」 ○歴史物語2 大鏡(二)「三船の才」		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<div>漢</div> ○史記2 荊軻伝 「風蕭蕭兮易水寒」「図窮而匕首見」		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)

11月 ～ 12月	2 学期 期末	<input type="checkbox"/> 古 ○作り物語 2 源氏物語(二)「唐猫の綱【若菜上】」 ○歴史物語 2 大鏡(二)「道長、伊周の競射」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<input type="checkbox"/> 漢 小説 2 「桃花源記」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）
		共通テスト対策問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 作品や文学史に係る問題
1 月	3 学期	入試過去問題演習	

令和6年度 年間学習計画表（理数科・B）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
古典探究		1	精選 古典探究 (古文編・漢文編) [東京書籍]	『常用国語便覧』(第一学習社) 『三訂版Key&Point古文単語330』(いっずな書店) 『改訂三版完全マスター古典文法』(第一学習社) 『漢文必携 五訂版』(桐原書店) 『共通テスト+センター試験 国語過去問題』(尚文出版)
【到達目標】			<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	
【学習上の留意点】			<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p> <p>④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。</p>	
月	テスト	進度(単元)		チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	<b>古</b> ○説話2 発心集「蓮花城、入水のこと」 ○日記2 紫式部日記「日本紀の御局」		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<b>漢</b> ○思想3 諸子百家「能近取譬」「無恒産無恒心」 「侵官之害」		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
6月 ～ 7月	1学期 期末	<b>古</b> ○評論 源氏物語の小櫛「もののあはれの論」 ○作り物語3 落窪物語「姫君の苦難」		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		<b>漢</b> ○白楽天と日本文学 白楽天「長恨歌」		<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
9月 ～ 10月	2学期 中間	<b>古</b> ○作り物語2 源氏物語(二)「須磨の秋【須磨】」 ○歴史物語2 大鏡(二)「三船の才」		<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解

		漢 ○史記 2 荊軻伝 「風蕭蕭兮易水寒」 「図窮而匕首見」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）
11月 ～ 12月	2学期 期末	古 ○作り物語 2 源氏物語(二)「唐猫の綱【若菜上】」 ○歴史物語 2 大鏡(二)「道長、伊周の競射」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題） <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		漢 小説 2 「桃花源記」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解（現代語訳・作品の主題）
		共通テスト対策問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 作品や文学史に係る問題
1月	3学期	入試過去問題演習	同上

令和6年度 年間学習計画表（A1）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
文学国語		3	文学国語 [東京書籍]	『新訂総合国語便覧』（第一学習社） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『読解を深める現代文単語』（桐原書店） 私大入試対策用問題集？
【到達目標】		①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
【学習上の留意点】		①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	随筆 1 ○国語から旅立って  小説 1 ○檸檬		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	小説 2 ○舞姫		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	詩歌  小説 3 蠅		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	私大入試対策問題演習		以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語事項に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 筆者の主張を理解する問題 <input type="checkbox"/> 実用的な文章の問題 <input type="checkbox"/> 作者に係る問題
1月	3学期	私大入試対策問題演習		同上

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

国語  
論理国語

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	小テスト 課題考査 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力が標準である。	該当問題40%未満の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に乏しい。
学習主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	定期考査 週末課題 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率 週末課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 週末課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	該当問題40%未満程度の得点率 週末課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

国語  
古典探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	小テスト 課題考査 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率  Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率  Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力が標準である。	該当問題40%未満の得点率  Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に乏しい。
度 学習主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	週末課題 行動観察等	週末課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	週末課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	週末課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

## 《地理総合》

### ○「地理学」とはどのような学問なのか

「地理学」について、『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』では「地表空間における特定地域の自然、人文の諸事象を総合的に把握し、地域的特色を明らかにしようとする学問。」と定義づけられています。すなわち、地球上で起こっている様々な事象について、文理の枠組みにとらわれることなく、総合的な理解を目指している学問であるといえるのではないのでしょうか。

「地理学」には大きく2つのアプローチ方法があります。皆さんが受講する「地理総合」では、主に「系統地理学」的なアプローチで学習を進めていきます。この「系統地理学」は、地理的条件と人類との一般法則を導き出すことを目指す学問分野です。具体的には、地形や気象などの自然現象について考える「自然地理学」と、産業や生活文化などの人間が形成した地表の現象について考える「人文地理学」から構成されています。ちなみに、もう1つのアプローチ方法は「地誌学」といい、特定の地域の状況を体系的に記述することを目指す学問分野です。

### ○地理を学習する意義

高校生が地理を学習する意義はどこにあるのでしょうか。よく言われるのは「一般教養として知っておくべき」という理由です。もちろん、地理は一般教養としての側面を持っています。知っていることが多い方が、世界がより鮮やかに見えることもあるでしょう。他には「受験科目として必要」という理由を挙げる人も多いと思われます。この理由は、地理を学習する理由として非常に現実的なものです。

しかし、それ以上に地理を学習する大きな意義があります。それは、「現代社会を見る目」を養うことができるということです。地理を学習すると、地形や気象、産業や生活文化など地球上で起こっている事象を分析するために必要な視点を多く獲得できます。18歳で成人、そして有権者になる前に、私たちの暮らす社会について深い考察ができるように地理を学んでいきましょう。

### ○授業の受け方

「地理総合」の授業は週に2回程度しかありません。1回1回の授業を大切にしてください。もちろん各自の予習や復習も必要ですが、「地理総合」を学習していくうえで核となってくるのは日々の授業です。何を学習するのかという目的意識をもって、毎回の授業に臨んでください。

教材（教科書、地図帳、資料集）は全クラス共通です。授業中いつでも使えるように、各自準備をしてください。ただし、授業の形式は担当の先生によって異なる部分もあります。例えば、配布したプリントを用いて授業を行う先生がいる一方で、各自が用意したノートを用いて授業を行う先生もいるといった具合です。各クラス授業担当の先生に確認をしてください。

### ○家庭学習の進め方

まずは、「予習—授業—復習」の「黄金サイクル」を確立してください。これは地歴公民科に限らず、全教科にいえることです。授業を核とした学習スタイルを1年生のうちから確立しておくことは、2年後の大学入試に向けても重要となってきます。

特に、地歴公民科においては「復習」を大切にしてください。教科書、地図帳、資料集など、有効な教材が皆さんの手元にあるはずですが、教材は授業で指示された時にしか開かない、というのではもったいないです。特に教科書は本文を読むだけでなく、地図や写真、統計データなど様々な資料にも目を通し、教材を徹底的に使い込みましょう。



科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
地理総合		3	地理総合〔二宮書店〕	新編フォトグラフィア地理図説2022〔とうほう〕		
【到達目標】		【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"><li>●【知識】地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</li><li>●【技能】地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li></ul> 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"><li>●地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など、概念などを活用して多面的・多角的に考察、地理的な課題の解決に向けて構想、考察、構想したことを効果的に説明、それらを基に議論する。</li></ul> 【学びに向かう力】 <ul style="list-style-type: none"><li>●地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</li><li>●多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚する。</li></ul>				
月	テスト	進度（単元）	【観点別評価】			
			【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【学びに向かう力】	
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 1 球面上の世界 2 世界からみた日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	<ul style="list-style-type: none"><li>●現代世界の地域成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解できる。</li><li>●日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解できる。</li><li>●現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li><li>●地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li></ul>	諸活動に対して、積極的に取り組み、よりよい社会の実現を視野に課題に主体的に追究、解決しようとしたか。	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2章 1 地形と生活文化 2 気候と生活文化 3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	<ul style="list-style-type: none"><li>●世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解できる。</li><li>●世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解できる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li></ul>		
9月 ～ 10月	2学期 中間	第3章 1 経済発展と生活文化の変化（東アジア） 2 宗教の多様性と生活文化（ASEAN諸国） 3 水の恵みと生活文化（南アジア） 4 イスラム社会の多様性と生活文化（イスラム圏） 5 多様な気候と生活文化（アフリカ）				
11月 ～ 12月	2学期 期末	6 経済統合による生活文化の変化（EUと周辺諸国） 7 寒冷な気候と生活文化（ロシア） 8 グローバル化による生活文化の変化（アメリカ・カナダ） 9 土地開発による生活文化の形成（ラテンアメリカ） 10 植民と移民による生活文化の形成（オセアニア）				
1月 ～ 2月	学年末	第4章 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口・食料問題 4 居住・都市問題 第5章 1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査  総合演習	<ul style="list-style-type: none"><li>●世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。また、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。</li><li>●我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</li><li>●様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。</li><li>●生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li><li>●地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</li><li>●生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、地図や地理情報システムを活用し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。</li></ul>		

## 《日本史探求》

### ☆『日本史』を学ぶ意義・目的

「『日本史』は暗記科目」「受験で使うから『日本史』を勉強する」「昔のことを勉強する意味が分からない」等々、『日本史』という科目に関して生徒間で頻繁に交わされる言葉があります。冗談で言っていると思いたいのですが、実際にはかなり本気で言っていると思わざるを得ない状況があり、とても心配している所です。

人間だれでも初めて取り組むことに関しては、かなりの不安や緊張を感じるはずですし、それゆえに失敗してしまうこともあるかもしれません。ただし、2度目以降になれば回を重ねるほど不安や緊張が無くなり、その取り組みはよりスムーズなものとなり、同時に中身も改善されていくものです。言うまでもありませんが、“経験”がもたらしたものです。と言うことは、取り組みをより良いものにしようとするならば、できるだけ多くの“経験”を積みば良いということになります。ところが、現実には何回“経験”を積んでも全くうまくいかなかった例が数多くあります。どういうことなのでしょう？ “経験”しないよりは“経験”した方が良いことはもちろんですが、どうやらただ単に“経験”しただけではほとんど効果を上げることはできず、一定の効果を上げるためには忘れてはいけない非常に大事なポイントがあるのではないかという推測を立てることができそうです。すでに答えがわかっている人もいますが、そのポイントこそが“記憶”と“考察”の2つということになります。いくら“経験”を積んでも忘れてしまったのでは次につながらないし、忘れなくても同じことを繰り返すだけで考えなければ改善はされないのです。

ところで、人間はその一生でどれほどの“経験”をすることができるのでしょうか？ 1人の人間が“経験”できることおよびその時期はおおよそ決まっており、特に若いうちは何をするにも“経験”が不足しているものです。つまりは、何に取り組んでも初めてのことが多く、うまくいかないことが予想されます。そのような中で可能性に満ちているはずの人生の幅を狭めてしまうことがあるかもしれません。しかし、そのようなことになることを防ぐことは思いのほか難しくはなく、みなさんもすぐに考え付くはずです。そうです、先人に学べば良いのです。先人に学ぶことで疑似とは言え“経験”し、本番に向けて“記憶”と“考察”をしておけば、結果に大きな違いが出ることは歴然です。

どうですか？ だんだん『日本史』を学ぶ意義が見えてきたのではないかと思います。日本の歴史は我々日本人の祖先たちが歩んできた道であり、様々な“経験”が詰まったものです。参考にならないはずがありません。『日本史』は決して受験で使うために勉強するものではなく、自分の持つ可能性を広げながらできる限り人生を有意義なものにするために勉強するのです。テストが終わったらすぐにでも忘れてしまいそうな暗記ではなく、滅多なことでは忘れないように“記憶”するものなのです。昔のことは未来への鏡であり、『日本史』＝「未来学」なのです。

そして最後に、現在様々な場面で急速に進展している“グローバル”化。みなさんも国際人として活躍することが期待されています。そのような時にも日本人として堂々と振る舞い、語るための根底には自国の歴史や文化が必要になってくると思います。また、自国の歴史や文化を大事にしない者が他国の歴史や文化を大事にできるとは思えません。そのようなことから『日本史』という科目を学ぶことの重要性がいよいよ増しているのではないかと考えています。

## ☆授業の受け方

『日本史』を学ぶ意義・目的に書いたことを踏まえて、高い意識を持って日々の授業に臨んでほしいと思います。授業ではプリント学習を行う先生、ノートを用意する必要がある先生がいますので、担当の先生に確認してください。教科書・図説・史料集・用語集は常に用意しておく必要があります。

R6年度の授業では、用語集、詳説日本史ノートを授業で使用していきます。

## ☆受験勉強の進め方

『日本史』は受験のために学ぶわけではないと言いながらも、受験を全く無視することはできないので一応触れておこうと思います。

教科書・図説・史料集など“記憶”する必要のあるものが非常に多いことが分かっているので、とにかくできる限り早い時期から取り組み始めることが重要になります。言うまでもありませんが、始める時期が遅ければ遅れた分だけ焦りを生じさせ、勉強に集中できなくなり効率が上がりません。『日本史』は、興味・関心さえ持てばいくらかでも自分で学習することができる科目なので、授業で実施されているかどうかということに関係なく取り組むことが可能です。そして単に“記憶”するだけではなく必ずそこに“考察”を加えてください。5W1Hを考えることで記憶が定着していきます。

## ☆参考書・問題集

様々な所で参考書や問題集が推薦されていますが、それほどこだわる必要は無いと思います。他人が使って良かったものが必ずしも自分に合うとは言いきれません。何も考えずに買ってしまいう生徒の話をよく耳にしますが、ぜひ買う前に自分の目で確認した方が良いでしょう。その結果自分には合わないと感じたならば、周りが良いと言っているでも買わない勇気を持ち、自分の判断で自信を持って自分が最も見やすいと感じたものを選んでください。それこそがあなたにとって最良の参考書・問題集となるはずです。

まずは原始・古代から近現代までを1冊通して行うことを勧めます。それが終わったら多くの問題集を解き、夏休みくらいからはテーマ別、記述論述、史料問題集などを勉強してみてください。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
日本史探求		5	詳説日本史 [山川出版社]	新詳日本史 [浜島書店] 日本史重要史料集[浜島書店] 詳説日本史ノート[山川出版社] 日本史用語集[山川出版社]
【到達目標】		① 日本の歴史の展開を、アジアのみならず世界史的視野から総合的に考察することによって歴史的見方・考え方を身につけさせる。 ② 日本文化の特色や伝統の形成過程についての認識を深めることによって、国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。 ③ 政治・経済・社会・地方などを各時代の史料などを活用しながら多角的にとらえ、歴史的思考力を培う。		
【学習上の留意点】		① 各時代の学習については用語も大切であるが、年表や歴史地図などを活用し5W1Hを意識しつつ「流れ」及び用語の関連性を意識する。 ② 中央の政治を軸としながらも、経済、外交、文化等と関連させ多面的に学習することに留意する。		
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	<input type="checkbox"/> 文化の始まり <input type="checkbox"/> 農耕社会の成立 <input type="checkbox"/> 古墳文化の展開 <input type="checkbox"/> 飛鳥の朝廷 <input type="checkbox"/> 律令国家への道 <input type="checkbox"/> 平城京の時代 <input type="checkbox"/> 律令国家の文化 <input type="checkbox"/> 律令国家の変容	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第4章 貴族政治の展開 第Ⅱ部 中世 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	<input type="checkbox"/> 摂関政治 <input type="checkbox"/> 国風文化 <input type="checkbox"/> 地方政治の展開と武士 <input type="checkbox"/> 院政の始まり <input type="checkbox"/> 院政と平氏政権 <input type="checkbox"/> 鎌倉幕府の成立 <input type="checkbox"/> 武士の社会 <input type="checkbox"/> モンゴルの襲来と幕府の衰退 <input type="checkbox"/> 鎌倉文化	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第7章 武家社会の成長 第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	<input type="checkbox"/> 室町幕府の成立 <input type="checkbox"/> 幕府の衰退と庶民の台頭 <input type="checkbox"/> 室町文化 <input type="checkbox"/> 戦国大名の登場 <input type="checkbox"/> 織豊政権 <input type="checkbox"/> 桃山文化 <input type="checkbox"/> 幕藩体制の成立 <input type="checkbox"/> 幕藩社会の構造 <input type="checkbox"/> 幕政の安定 <input type="checkbox"/> 経済の発展 <input type="checkbox"/> 元禄文化	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第10章 幕藩体制の動揺 第Ⅳ部 近代・現代 第11章 近世から現代へ 第12章以降の復習	<input type="checkbox"/> 幕政の改革 <input type="checkbox"/> 宝暦・天明期の文化 <input type="checkbox"/> 幕府の衰退と近代への道 <input type="checkbox"/> 化政文化 <input type="checkbox"/> 開国と幕末の動乱 <input type="checkbox"/> 幕府の滅亡と新政府の発足 <input type="checkbox"/> 歴史総合での既習事項の復習	
1月		日本史の総合演習	<input type="checkbox"/> 問題演習 (通史、テーマ史)	

## 地理歴史科

### 【世界史を学ぶにあたって】

3年世界史探究では、2年歴史総合で学習した範囲と繋がる時代の学習を行います。「世界史」と聞くと、「外国の…」 「過去の…」 「今の自分には関係のないこと…」 という感情を持つ人もいるかもしれませんが、実際には「今の私たちに」すべてが繋がっているのです。**世界史で起こる諸現象には、すべて「因果関係（原因と結果）」があり、それによって人間社会は大きく動いています。**人類がどのように社会を築き上げてきたのか、何が平和や安定をもたらし、何が悲劇や破滅へと導いたのか、それらを過去の多くの事例から解き明かすことによって、私たちはこれからの社会をどのように築くべきなのか、たくさんの手がかりを得ることができます。

つまり、**歴史とは「過去を知ることを通して未来を考える」学問です。**現在の世界情勢を見ても、実に混沌として様々な問題があふれていますが、それらも過去の歴史の中に発端を見出すことができます。逆に、歴史を学ばず過去の失敗を知らないということは、自分の生きている現在がなぜこのような姿なのかを正しく理解できず、あるいは大きな過ちを繰り返す危険を抱えることにもなります。これは、将来どんな分野で活躍する人にとっても重要なことです。歴史の知識は、良き未来の担い手となる皆さんにとって、知恵の一助となるはずです。

### 【3年世界史探究の学習方法】

3年生になると、自分の勉強スタイルが確立されてきている人も多いと思います。大切なことは、他教科とのバランスを考えながら、スキマ時間を上手く活用して日頃の授業でしっかり内容を身につけておくことこそが、最善の「試験対策」です。以下は、世界史を学習する上で意識すべき事ですので参考にしてください。

#### ①何よりも先に、基礎づくりを進める。

大学受験世界史における基礎は「教科書の内容を把握すること」です。しっかり教科書を熟読して基礎づくりをしましょう。この**基礎づくりの時に意識すべきは「流れを掴むこと」**です。「社会科目＝暗記」と考えている人もいますが、「暗記してから次の単元へ…」ではなく「大枠の流れを掴んでいく」ことが大切です。**流れを掴む**というのは「**歴史の因果関係をきちんと把握する**」ことから始まります。それぞれの出来事の関係や繋がりを意識しながら、教科書や授業ノートを読むことがポイントです。歴史科目の論述問題はそのような因果関係を問うものが多く、流れを掴んでいないと対応できません。それだけでなく、年代を問われる問題などでは、流れをしっかりと掴んでいれば、年号を正確に覚えていなくても因果関係で答えが分かることも多々あります。世界史における「流れ」は本当に大事です。

#### ②たくさんアウトプットすることで、記憶の定着をはかる。

問題集にしろ、過去問を解く時も、最も大切な事は「解きっぱなしにしない」ことです。間違えた問題を解き直すことは当たり前ですが、**正解した問題についても「勘で解いたら、たまたま正解した問題なのか」を見極め**ましょう。もし勘で解いていたのなら、それは理解しきれていない証拠です。必ず教科書で確認しましょう。自分の知識の欠けている部分を知ることができます。完璧に全問正解する必要はありません。本番で正解すればいいのです。どんどん問題を解き、アウトプットすることに意味があります。**問題集を選ぶ際は、「はじめに」で目的や難易度を確認し、「解説」を読んで分かるかどうか等をポイントに、自分に合うものを使うと良いですよ。**

#### ③日本を含めた、世界のニュースに関心を持つ。

世界史を学ぶ上で、実はこれこそが最も大切な姿勢です。現在の世界を把握している人は、過去の出来事を学んだときに、「だからこの地域は今こうなっているのか」「だからこの国とこの国はこういう関係になったのか」と、**時間と空間の「縦軸」と「横軸」が繋がる感覚を体感できる**と思います。その感覚を身に着ける事こそが、世界史のエキスパートになる一番の肝です。**楽しみながら、ワクワクしながら、共に学びましょう。**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
世界史探究		5	詳説 世界史 [山川出版社]	アカデミア世界史 [浜島書店] 詳説世界史ノート [山川出版] 世界史用語集 [山川出版]
【到達目標】		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色を考察し、思考力、判断力、表現力等を一層育み、地球世界の課題をその解決を視野に、主体的に探究する力を育成することを目指します。		
【学習上の留意点】		① 地域の交流と再編について、因果関係をもとに考察し、理解を深めることができたのか。 ② 諸地域の統合・変容について、因果関係をもとに考察し、理解を深めることができたのか。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 1 文明の成立と古代文明の特質 2 中央ユーラシアと東アジア世界 3 南アジア世界と東南アジア世界の展開		<input type="checkbox"/> 古代オリエント文明 <input type="checkbox"/> 南アジアの古代文化 <input type="checkbox"/> 中国の古代文明 <input type="checkbox"/> 南北アメリカ文明 <input type="checkbox"/> 秦・漢と中国の動乱 <input type="checkbox"/> 仏教の成立と南アジアの統一 <input type="checkbox"/> インド古典文化とヒンドゥー教の定着
6月 ～ 7月	1学期 期末	4 西アジアと地中海周辺国家形成 5 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 6 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 7 ヨーロッパ世界の変容と展開 8 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 9 大交易・大交流の時代		<input type="checkbox"/> イラン諸国家の興亡とイラン文明 <input type="checkbox"/> ローマと地中海支配 <input type="checkbox"/> キリスト教の成立と発展 <input type="checkbox"/> アラブの大制服とイスラーム政権の成立 <input type="checkbox"/> イスラーム教の諸地域への伝播 <input type="checkbox"/> 西ヨーロッパの封建社会とその展開 <input type="checkbox"/> 東ヨーロッパ世界の展開 <input type="checkbox"/> 西ヨーロッパ世界の変容 <input type="checkbox"/> 西ヨーロッパ世界の中世文化 <input type="checkbox"/> アジア諸地域の自立化と宋 <input type="checkbox"/> モンゴルの大帝国 <input type="checkbox"/> ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸 <input type="checkbox"/> アジア交易世界の興隆
9月 ～ 10月	2学期 中間	10 アジアの諸帝国の繁栄 11 近世ヨーロッパ世界の動向 第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 12 産業革命と環大西洋革命 13 イギリスの優位と欧米国民国家の形成		<input type="checkbox"/> オスマン帝国とサファヴィー朝 <input type="checkbox"/> ムガル帝国 <input type="checkbox"/> 清代の中国と隣接地域 <input type="checkbox"/> ルネサンス <input type="checkbox"/> 宗教改革 <input type="checkbox"/> オランダ・イギリス・フランスの台頭 <input type="checkbox"/> 産業革命 <input type="checkbox"/> アメリカ合衆国の独立と発展 <input type="checkbox"/> ウィーン体制とヨーロッパ政治・社会 <input type="checkbox"/> 19世紀欧米文化と市民文化
11月 ～ 12月	2学期 期末	14 アジア諸地域の動揺 15 帝国主義とアジアの民族運動 16 第一次世界大戦と世界の変容 17 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第Ⅳ部 地球世界の課題 18 冷戦と第三世界の台頭 19 冷戦の終結と今日の世界		<input type="checkbox"/> 西アジア地域の変容 <input type="checkbox"/> 南アジア・東南アジアの植民地化 <input type="checkbox"/> 第2次産業革命と帝国主義 <input type="checkbox"/> 列強の世界分割と列強体制の二分化 <input type="checkbox"/> 第一次世界大戦とロシア革命 <input type="checkbox"/> ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 <input type="checkbox"/> アジア・アフリカ地域の民族運動 <input type="checkbox"/> 第二次世界大戦 <input type="checkbox"/> 冷戦の展開 <input type="checkbox"/> 第三世界の台頭とキューバ危機 <input type="checkbox"/> 冷戦体制の動揺 <input type="checkbox"/> 産業構造の変容 <input type="checkbox"/> 冷戦の終結 <input type="checkbox"/> 今日の世界 <input type="checkbox"/> 現代文明の諸相
1月 ～ 2月		世界の全体像概観（年間のまとめ）		

## 《地理探究》3 学年

### ☆「地理」を学ぶ意義・目的

広い視野で世界を見渡し、過去・現在起きていること、今後起こりうることを自分の視点で検証・分析する力をつける

「受験に使うから」… 勿論、学ぶ目的として、確かにそれもあります。しかし、「地理」を学ぶ本当の意義・目的は、広い視野で世界を見渡し、過去・現在起きていること、今後起こりうることを自分の視点で検証・分析する力をつけることです。「地理」は、「日本史」「世界史」「現代社会」「政治経済」など他科目と大きく関わります。そして、他科目の知識を土台にした地理探究の問題が、センター試験や私大入試で数多く出題されているのが事実です。また、そういった横断的な知識を要する問題で失点している受験生が多いのも、また事実です。

#### 〔例 1〕ヨーロッパの農業の発達

→ 「地理探究」の、ヨーロッパ地誌で扱いますが、皆さんが2年生で習った「歴史総合」と大いにリンクしています。例えば、「アヘン戦争」の舞台裏、「三角貿易」があります。イギリスからインドへ綿織物が、インドから清へアヘンが…」という三角図を見たことがあるでしょう。イギリスの綿織物は、ランカシャー地方で産業革命期に発達したものです。ランカシャー地方がどこにあり、どのような気候なのか。気候と産業は大きく関わります。

#### 〔例 2〕アメリカの工業の発達

→ 「地理探究」の北アメリカ地誌で扱いますが「現代社会」「政治経済」と大いにリンクしています。

例えば、アメリカのトランプ氏は、「ラストベルト（錆びついた工業地帯）」と呼ばれる地域の白人労働者からの熱烈な支持を背景に、2016年11月の大統領選に勝利、2017年1月に大統領に就任しました。この「ラストベルト（錆びついた工業地帯）」がどこにあり、どのような工業を推し進めたのか、なぜ「錆びついた」のか。こういった現在のニュースに繋がる知識を学びます。

### ☆授業の受け方

受験に使う・使わないに関係なく、上記の意義・目的を正しく理解して授業を受けてください。「地理探究」の授業を通して外国のニュースに興味を持ったり、日本について更に理解を深めたりすることが大切です。

### ☆受験勉強の進め方

「地理探究」は1年生の「地理総合」を基礎知識として行う科目で、授業時数も決して十分とは言えません（普通科4単位または3単位）。

そこで教科書を購入したら一読するだけで結構ですので、可能な限り予習を進めて下さい。基本的な知識が頭に入っている状態で授業を受け、授業後は必ず復習して下さい。統計資料の分析等の細かいところも含めて

です。共通テスト・過去のセンター試験・私大の過去問演習は、夏休みからで十分です。あまり古い過去問になると、統計資料が授業内容と違ってくるので、過去5年分くらいを何回も解きましょう。そして、既習範囲で失点した箇所は、教科書や資料集に戻って何度も確認し、ノート整理しましょう。

令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
地理探究		3	地理探究 [二宮書店]	新編フォトグラフィア地理図説 [東京法令出版] データブック [二宮書店]
【到達目標】		①地図や統計資料の分析を、早く正確に行える力を身に着ける。 ②与えられた地理的情報をもとに、正しい地理的思考をする力を身に着ける。 ③諸地域の課題と特色を理解し、国際社会に生きる日本国民としての資質を養う。		
【学習上の留意点】		①資料分析のために必要な、正しい知識を身に着けているか。 ②日々のニュースに関心を持ち、自己の見識をもとに主体的に判断することができたか。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境		<input type="checkbox"/> 地形・ <input type="checkbox"/> 気候と生態系 <input type="checkbox"/> 世界各地の自然と生活 <input type="checkbox"/> 日本の自然環境と防災 <input type="checkbox"/> 地球環境
		第2章 資源と産業		<input type="checkbox"/> 農林水産業 <input type="checkbox"/> 資源・エネルギー <input type="checkbox"/> 工業 <input type="checkbox"/> 第3次産業
		第3章 人・モノ・金のつながり 第4章 人口・村落・都市		<input type="checkbox"/> 交通・通信 <input type="checkbox"/> 貿易・観光 <input type="checkbox"/> 人口 <input type="checkbox"/> 村落・都市
6月 ～ 7月	1学期 期末	第5章 文化と国家		<input type="checkbox"/> 生活文化と言語・宗教 <input type="checkbox"/> 世界の衣服・食生活・住居・言語 <input type="checkbox"/> 国家とその領域 <input type="checkbox"/> 国家の形成と領域 <input type="checkbox"/> 世界の民族・領土に関する問題 <input type="checkbox"/> 日本の領土に関する問題 <input type="checkbox"/> 海洋国家としての日本 <input type="checkbox"/> 国際連合の役割と課題
9月 ～ 10月	2学期 中間	第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 第1章 地域区分		<input type="checkbox"/> 地域区分の目的と方法 <input type="checkbox"/> さまざまな地域区分
		第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 地域区分		<input type="checkbox"/> 現代世界の地域区分
		2章 現代世界の諸地域		<input type="checkbox"/> 地誌の考察方法 <input type="checkbox"/> 東アジア <input type="checkbox"/> 東南アジア <input type="checkbox"/> 南アジア <input type="checkbox"/> 西アジアと中央アジア <input type="checkbox"/> 北アフリカとサハラ以南のアフリカ <input type="checkbox"/> ヨーロッパ
11月 ～ 12月	2学期 期末			<input type="checkbox"/> ロシア <input type="checkbox"/> アングロアメリカ <input type="checkbox"/> ラテンアメリカ <input type="checkbox"/> オセアニア
1月		第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像 地理の総合演習		<input type="checkbox"/> 現代に求められる国土像 <input type="checkbox"/> 2050年の日本の姿 <input type="checkbox"/> 地図とGPS

※1月について、授業・考査が行われた場合。



令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
地理探究		4	地理探究 [二宮書店]	新編フォトグラフィア地理図説 [東京法令出版] データブック [二宮書店]
【到達目標】		①地図や統計資料の分析を、早く正確に行える力を身に着ける。 ②与えられた地理的情報をもとに、正しい地理的思考をする力を身に着ける。 ③諸地域の課題と特色を理解し、国際社会に生きる日本国民としての資質を養う。		
【学習上の留意点】		①資料分析のために必要な、正しい知識を身に着けているか。 ②日々のニュースに関心を持ち、自己の見識をもとに主体的に判断することができたか。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境		<input type="checkbox"/> 地形・ <input type="checkbox"/> 気候と生態系 <input type="checkbox"/> 世界各地の自然と生活 <input type="checkbox"/> 日本の自然環境と防災 <input type="checkbox"/> 地球環境
		第2章 資源と産業		<input type="checkbox"/> 農林水産業 <input type="checkbox"/> 資源・エネルギー <input type="checkbox"/> 工業 <input type="checkbox"/> 第3次産業
		第3章 人・モノ・金のつながり 第4章 人口・村落・都市		<input type="checkbox"/> 交通・通信 <input type="checkbox"/> 貿易・観光 <input type="checkbox"/> 人口 <input type="checkbox"/> 村落・都市
6月 ～ 7月	1学期 期末	第5章 文化と国家		<input type="checkbox"/> 生活文化と言語・宗教 <input type="checkbox"/> 世界の衣服・食生活・住居・言語 <input type="checkbox"/> 国家とその領域 <input type="checkbox"/> 国家の形成と領域 <input type="checkbox"/> 世界の民族・領土に関する問題 <input type="checkbox"/> 日本の領土に関する問題 <input type="checkbox"/> 海洋国家としての日本 <input type="checkbox"/> 国際連合の役割と課題
9月 ～ 10月	2学期 中間	第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 第1章 地域区分		<input type="checkbox"/> 地域区分の目的と方法 <input type="checkbox"/> さまざまな地域区分
		第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 地域区分		<input type="checkbox"/> 現代せかいの地域区分
		2章 現代世界の諸地域		<input type="checkbox"/> 地誌の考察方法 <input type="checkbox"/> 東アジア <input type="checkbox"/> 東南アジア <input type="checkbox"/> 南アジア <input type="checkbox"/> 西アジアと中央アジア <input type="checkbox"/> 北アフリカとサハラ以南のアフリカ <input type="checkbox"/> ヨーロッパ
11月 ～ 12月	2学期 期末			<input type="checkbox"/> ロシア <input type="checkbox"/> アングロアメリカ <input type="checkbox"/> ラテンアメリカ <input type="checkbox"/> オセアニア
		第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像		<input type="checkbox"/> 現代に求められる国土像 <input type="checkbox"/> 2050年の日本の姿
1月		地理の総合演習		<input type="checkbox"/> 地図とGPS

※1月について、授業・考査が行われた場合。

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

地理歴史  
日本史探求

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史を関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的、多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
主体的に取組み態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事情について、よりより社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

地理歴史  
世界史探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開にかかわる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができることができる。	考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
主体的に取組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

地理歴史  
地理探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>【知識】地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</p> <p>【技能】地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。</p>	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	<p>【着目】地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概念などを活用して多面的・多角的に考察する。</li> <li>・地理的な課題の解決に向けて構想する。</li> <li>・考察、構想したことを効果的に説明する。</li> <li>・それらを基に議論する。</li> </ul>	考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
学習主体的に取り組む態度	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚する。</p>	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

## 公民科（倫理、政治・経済、公共探究）

### 1. 「最終完成科目として」

3年生の公民科は、3年間の社会科学(地歴科・公民科)学習の完成科目といえます。これまでに学んだ知識がつながっていき、さらに深く理解していける段階に進むからです。受験科目に限定して、窓を閉ざしてしまうのはもったいないことです。実際、他の授業で学んだことが受験で思いがけず役に立った、ということは社会科学の科目同士ではよくあることですし、教科を超えた教養や理解に達する喜びを感じさせてくれることすらあります。共通テストに限らず、特に論述の問題に解答するためには、幅広く全体を見渡す視野が欠かせません。広く、そして深く、学んで下さい。大学に入学してからの研究にも必ず役立つはずです。また、受験科目ではなかったもので、という言い訳は社会では通用しません。社会に出てからも幅広く深い教養は必要不可欠です。

### 2. 1年生の公共との連携

1年生に全員が「公共」を履修しています。その中で、「倫理」および「政治・経済」と重複する分野があります。「倫理」では「青年期の心理」など、政治・経済では「憲法」をはじめとする多くの分野です。そこで3年生の「倫理」、「政治・経済」では、現代社会で扱った分野と重複しないように授業を計画します。年によって、進度の差が出る場合もあるので、その場合は調整して授業を行います。

### 3. 「倫理」

高校の学習科目としての倫理は、端的に言えば“思想カタログ”の性格を持つ。将来、上級学校で専門的に深く学ぶのもいいし、人生の指針や生活上に役立つ知識教養として身につける努力もよいだろう。そのための基本・ベースになるものを、人類の歴史に沿う流れで学んでいくことになる。範囲としては、宗教や青年期なども含まれる。単位数は多くないので、高校倫理の内容をすべて授業で扱うのは難しいので、希望に応じて長期休業中に進学のための補習を行う予定はあるので、必要な者は早めに申し出てほしい。試験のポイントとしては、専門用語が多く登場する科目であり、その理解と整理が肝要なのは、定期考査でも共通テストなどでも変わらない。問題を考えたり、記述を理解するためのベースである。

### 4. 「政治・経済」

「何を勉強したらいいかわからない！」

⇒実際の受験問題を解いてみよう。ゴール（頂上）を見ておけばおのずと対策（ルート）が見えてくる。

日本史や世界史と迷っている人は志望校の入試問題を解いて比べてみてください。登れそうな山はどれか？

それから、政治・経済、公共では新聞（ニュース）は必須です。できれば毎日、新聞に目を通してください。

「おすすめの参考書・問題集はありますか？」

⇒政治・経済（公民）の参考書・問題集は圧倒的に種類が少ない！なるべく大きな書店に行って、自分に合ったものを選んでください。そして必ず最新のものを使ってください。政治・経済は動いています。古い問題集は要注意です。疑問が生じたら、いつでも引ける辞書として、手元において勉強してください。私大入試のほとんどは自分で解決できます！

「同じ問題集を繰り返しやる必要がありますか？」

⇒地理歴史科、公民科の場合は、2～3冊の問題集を解いた方が有効です。違う角度からの出題に慣れることが必要です。教科書のすべての範囲を終わらせることができなくても、2学期に入ったら問題演習に取り組んで下さい。模試で出た問題など、勉強したことをすべて1つのノートにまとめておくと、受験のお守りになります！

## 5. 「公共探究」

本校独自の設定科目であり、Bコース向けに開講します。Bコースでは「政治・経済」・「倫理」を履修することができません。そこで、本講座はAコース向けの「政治・経済」・「倫理」をダイジェスト版として3単位扱いで学習することになります。まずは1年生のときに学習した「公共」の内容を確認しながら、授業を進めていきます。「政治・経済」に関しては経済を重点的に学習することで、「公共」の内容を補完しつつ、現代社会の課題を捉えます。また、「倫理」は先哲の思想を学びながら、今日の論争的課題の是非をともに考えていく予定です。なお、本講座を受講し、受験科目で各公民科科目を選択する予定の人は、開講時に担当者へ申し出て下さい。本講座のみでは受験に十分対応できない可能性がありますので、要相談です。

令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
政治・経済		2	政治・経済 [東京書籍]	ズームアップ政治・経済資料
【到達目標】		<p>① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>		
月	テスト	進度（単元）教科書目次より		主な学習事項
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則 3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題		<input type="checkbox"/> 民主政治の成立 <input type="checkbox"/> 日本国憲法の制定と基本原理 <input type="checkbox"/> 国会と立法 <input type="checkbox"/> 戦後政治と政党
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ 3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題 第3章 現代日本の諸課題		<input type="checkbox"/> 経済活動の意義 <input type="checkbox"/> 経済主体と経済の循環 <input type="checkbox"/> 戦後日本経済の発展 <input type="checkbox"/> 公害と環境保全
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際政治と日本		<input type="checkbox"/> 国際政治の特質 <input type="checkbox"/> 国際社会と国際法 <input type="checkbox"/> 戦後国際関係の展開と日本
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済 2節 世界経済の現状と課題		<input type="checkbox"/> 貿易と国際収支 <input type="checkbox"/> 戦後国際経済体制の展開 <input type="checkbox"/> グローバル化する国際経済 <input type="checkbox"/> 地球環境問題
1月		第3章 国際社会の諸課題		<input type="checkbox"/> グローバル化にともなう社会変容 <input type="checkbox"/> 地球環境と資源・エネルギー問題 <input type="checkbox"/> 国際的な経済格差の是正

※ 主な学習事項は学習内容のすべてではない。

※ 1学期中間テストは実施しないことがある。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
倫理		2	倫理 [東京書籍]	テオリア最新倫理資料集
【到達目標】		① 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ② 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 ③ 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。		
月	テスト	進度（単元）教科書目次より		主な学習事項
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 第1章 人間の心のあり方 1節 人間とは何か 2節 人間の心の働き		<input type="checkbox"/> 人間の特質 <input type="checkbox"/> 青年期の課題 <input type="checkbox"/> 認知 <input type="checkbox"/> 感情と個性 <input type="checkbox"/> 発達
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2章 さまざまな人生観 ・倫理観・世界観Ⅰ 1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術		<input type="checkbox"/> 人間と哲学 <input type="checkbox"/> 哲学の誕生と自然哲学 <input type="checkbox"/> 集団的な現象としての宗教 <input type="checkbox"/> 『旧約聖書』の倫理 <input type="checkbox"/> ムハンマドとイスラームの教え <input type="checkbox"/> 古代インドの思想 <input type="checkbox"/> 孔子と儒家の思想 <input type="checkbox"/> 美の発見と芸術の創造・鑑賞
9月 ～ 10月	2学期 中間	第3章 さまざまな人生観 ・倫理観・世界観Ⅰ 1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり		<input type="checkbox"/> 人間主体の時代 <input type="checkbox"/> 新しい学問の方法 <input type="checkbox"/> カント ― 人格の尊厳 <input type="checkbox"/> 功利主義と幸福 <input type="checkbox"/> 世界をとらえる知のあり方の変容 <input type="checkbox"/> 存在への問い <input type="checkbox"/> 他者と言語
11月 ～ 12月	2学期 期末	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚		<input type="checkbox"/> 日本人の精神風土 <input type="checkbox"/> 仏教と日本人の思想形成 <input type="checkbox"/> 儒教と日本人の思想形成 <input type="checkbox"/> 国学の思想 <input type="checkbox"/> 庶民の思想
1月		第2編 現代の諸課題と倫理		<input type="checkbox"/> 生命 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 科学技術 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 文化と宗教 <input type="checkbox"/> 戦争と平和

※ 主な学習事項は学習内容のすべてではない。

※ 1学期中間テストは実施しないことがある。



令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
公共探究		3	政治・経済 [東京書籍]	ズームアップ政治・経済資料
【到達目標】		<p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>		
月	テスト	進度（単元）教科書目次より		主な学習事項
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則 3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題		<input type="checkbox"/> 民主政治の成立 <input type="checkbox"/> 日本国憲法の制定と基本原理 <input type="checkbox"/> 国会と立法 <input type="checkbox"/> 戦後政治と政党
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ 3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題 第3章 現代日本の諸課題		<input type="checkbox"/> 経済活動の意義 <input type="checkbox"/> 経済主体と経済の循環 <input type="checkbox"/> 戦後日本経済の発展 <input type="checkbox"/> 公害と環境保全
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際政治と日本		<input type="checkbox"/> 国際政治の特質 <input type="checkbox"/> 国際社会と国際法 <input type="checkbox"/> 戦後国際関係の展開と日本
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済 2節 世界経済の現状と課題		<input type="checkbox"/> 貿易と国際収支 <input type="checkbox"/> 戦後国際経済体制の展開 <input type="checkbox"/> グローバル化する国際経済 <input type="checkbox"/> 地球環境問題
1月		第3章 国際社会の諸課題		<input type="checkbox"/> グローバル化にともなう社会変容 <input type="checkbox"/> 地球環境と資源・エネルギー問題 <input type="checkbox"/> 国際的な経済格差の是正

※ 主な学習事項は学習内容のすべてではない。

※ 1学期中間テストは実施しないことがある。

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

公民  
政治経済

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
学習主体に取的に組み込む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

公民  
倫理

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
学習主体に取的に組み込む態度	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

公民  
公共探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
学習主体に取的に組み込む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

### 3 数学科

#### 1 『基礎学力は定理・公式を覚えることから始める！』

受験勉強のスタートとして、まず基礎となる定理・公式の確認をしましょう。不安な人は教科書や問題集の例題等を、定理・公式を確認しながら解くことによって使いながら覚えて下さい。よく公式は導くものと言われますが、すべての公式を入試会場で導いていては、試験時間はすぐに終わってしまいます。そこで基本的な公式については、

①考えずに書ける ②いつでも導ける ③活用の場面とリンクさせる

を目標にしっかり覚えましょう。

#### 2 『予習・授業・復習のサイクルを確立する！』

3年の授業では演習によるものが多くなります。その際には、授業範囲の問題は自分の力で解いておく予習が前提となります。さらに、他人に対して自分の考えを論理的に伝えられるまでにまとめ、整理しておく必要があります。

次に、学校の授業で学んだことを確実に身につけるためには、復習が重要です。授業の後で、問題だけ見て解答を再現してみると、あれ!?!ということがよくあります。そこで実は完全には理解できていなかったことに気がつきます。復習では、その日の授業の内容も含めて再現し、鉛筆を持って答案を作ることを心掛けましょう。数学は覚えることと考えることの両方が要求される科目です。「わかった!」と思っても、実際に計算してみると行き詰まることも少なくありません。問題を解いたり公式を証明したりするときには、方針が立ったら終わりにするのではなく、ノートにきちんと書いてみましょう。

これらのサイクルを繰り返していくことで、計算力と答案作成能力の向上に繋がります。

#### 3 『数学ⅠAと数学ⅡBCの比重に注意して基礎学力の充実を目指す！』

4月から6月は受験の基礎学力をつける時期です。教科書や問題集の例題等が完璧に解けるレベルが目標です。さらに、理系の人と国立文系で2次試験に数学がある人（以下、「2次型の人」と表す）は受験問題集の予習・復習に力を入れましょう、その際には参考書の活用が有効です。

そして、数学ⅠAと数学ⅡBCとではやらなければならない分量に大きな差があるので、計画を立てるときには数学ⅡBCの比率を増やしておきましょう。数学ⅡBCの問題は、計算量が多く数学ⅠAの内容を利用して解く場合も多いので、数学ⅠAの分野の理解の確認にもなります。

#### 4 『夏休みは弱点の克服と得意分野を作る学習にあてる！』

夏休みは、1学期の復習や学校の夏期講習への参加などが考えられますが、この時期を利用して弱点の克服と得意分野を作ることがポイントです。4月から6月の勉強の中で基礎学力の充実を目標に学習を進めてきても、弱点苦手分野は残るものです。共通テスト型の人には基礎から標準レベルの問題に取り組んで苦手分野を解消して下さい。2次型の人にもこの時期に苦手分野を克服しましょう。さらに、得意分野をいくつか作っておくと、秋以降の学習を順調に進めることが出来ます。

## 5 『9月以降は実戦レベルの問題で知識の整理と演習をする！』

共通テスト型の人で、ある程度基礎学力にめどがついてきた人は、4、5年分の共通テストおよびセンター試験の過去問を解いてみましょう。意外に難しく感じる人が多いかもしれません。特に数学ⅡBは論理的なものや解法が面倒なものも出題されています。また、センター試験・共通テスト独特の客観形式に慣れることも大きな課題です。

学力とは別に、共通テストの難しさには「時間」というものがあります。文章量や計算量が多いので、かなりのスピードで問題を解いていかないと高得点は望めません。常日頃から、時間を計りながら問題を解き、できるだけ時間のかからない解法を選択するなどの、時間的感覚を身につけて下さい。計算も怠らずやり、計算力をつけるようにして下さい。このようなことを心掛けていけばかなり速く問題が解けるようになります。

2次型の方は、志望大学の過去問を解いてみましょう。時間を計りながらチャレンジしてみると、かなりきついという印象をもつかかもしれませんが、この時期にあまりできなくても構いません。志望校の傾向を知り、自分の学力と過去問との差を測るのが目的だからです。標準・応用問題対策を行うことがこの時期の目標です。また、答案を書く練習も大切にしていきましょう。

直前期は実戦力完成期ですから、試験時間に合わせた実戦的な問題演習を通じて、受験環境に慣れておくことが大切です。生活面では、十分な睡眠(6～7時間ぐらい)、早起き習慣、夜型の学習から昼型の学習への変更、インフルエンザ対策などを心掛けて下さい。

## 6 『書籍』など

基礎基本の確認から受験対策まで、教科書やチャート等、学校で購入しているもので十分対応できます。まずはこれらをしっかりとこなしましょう。また、スタディサプリを活用することもお勧めです。より基礎基本を中心に組みたいとか、応用問題により多くチャレンジしたいという人は、多くの出版社から様々な参考書や問題集が出ているので、教科担当の先生とも相談して自分に合ったものを探してください。

令和6年度 年間学習計画表 普通 A1, A2

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学探究 (A2)		4		参考書「チャート式 解法と演習」
数学探究 (A1)		2		リンク数学演習I・A+II・B・C 受験編 共通テスト問題集他
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	リンク数学演習I・A+II・B・C 「チャート式 解法と演習」		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習
6月 ～ 7月	1学期 期末	リンク数学演習I・A+II・B・C 「チャート式 解法と演習」		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習
9月 ～ 10月	2学期 中間	リンク数学演習I・A+II・B・C 「チャート式 解法と演習」 共通テスト問題集		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習 <input type="checkbox"/> 共通テスト対策
11月 ～ 12月	2学期 期末	リンク数学演習I・A+II・B・C 「チャート式 解法と演習」 共通テスト問題集		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習 <input type="checkbox"/> 共通テスト対策
1月 ～ 2月	3学期	総合演習		<input type="checkbox"/> 大学入学共通テスト <input type="checkbox"/> 私立大学入試 <input type="checkbox"/> 国公立大学入試

※ 実力テスト：大学入試に向けての模試を実施する。

令和6年度 年間学習計画表 **普通B**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学Ⅲ 数学C		4 3	数学Ⅲ 数学C [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」 問題集「4プロセス」 リンク数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 受験編 共通テスト問題集他
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅲ」第2章 極限 第2節 関数の極限		<input type="checkbox"/> 関数の極限 <input type="checkbox"/> 三角関数の極限 <input type="checkbox"/> 関数の連続性
		「数学Ⅲ」第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数		<input type="checkbox"/> 微分係数と導関数 <input type="checkbox"/> 導関数の計算 <input type="checkbox"/> いろいろな関数の導関数 <input type="checkbox"/> 第n次導関数 <input type="checkbox"/> 曲線の方程式と導関数
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学Ⅲ」第4章 微分法的应用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用		<input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 平均値の定理 <input type="checkbox"/> 関数の値の変化 <input type="checkbox"/> 関数のグラフ <input type="checkbox"/> 方程式・不等式への応用
		「数学Ⅲ」第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法的应用		<input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 置換積分と部分積分 <input type="checkbox"/> いろいろな関数の不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分のいろいろな問題 <input type="checkbox"/> 面積 <input type="checkbox"/> 体積 <input type="checkbox"/> 曲線の長さ
9月 ～ 10月	2学期 中間	リンク数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 「チャート式 解法と演習」		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習
11月 ～ 12月	2学期 期末	リンク数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 「チャート式 解法と演習」 共通テスト問題集		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習 <input type="checkbox"/> 共通テスト対策
1月 ～ 2月	3学期	総合演習		<input type="checkbox"/> 大学入学共通テスト <input type="checkbox"/> 私立大学入試 <input type="checkbox"/> 国公立大学入試

※ 実力テスト：大学入試に向けての模試を実施する。



令和6年度 年間学習計画表 **理数**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS理数数学特論Ⅱ		7	数学Ⅲ 数学C [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」 問題集「4プロセス」 リンク数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 受験編 共通テスト問題集他
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅲ」第2章 極限 第2節 関数の極限		<input type="checkbox"/> 関数の極限 <input type="checkbox"/> 三角関数の極限 <input type="checkbox"/> 関数の連続性
		「数学Ⅲ」第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数		<input type="checkbox"/> 微分係数と導関数 <input type="checkbox"/> 導関数の計算 <input type="checkbox"/> いろいろな関数の導関数 <input type="checkbox"/> 第n次導関数 <input type="checkbox"/> 曲線の方程式と導関数
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学Ⅲ」第4章 微分法的应用 第1節 導関数の应用 第2節 いろいろな应用		<input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 平均値の定理 <input type="checkbox"/> 関数の値の変化 <input type="checkbox"/> 関数のグラフ <input type="checkbox"/> 方程式・不等式への応用
		「数学Ⅲ」第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法的应用		<input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 置換積分と部分積分 <input type="checkbox"/> いろいろな関数の不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分のいろいろな問題 <input type="checkbox"/> 面積 <input type="checkbox"/> 体積 <input type="checkbox"/> 曲線の長さ
9月 ～ 10月	2学期 中間	リンク数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 「チャート式 解法と演習」		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習
11月 ～ 12月	2学期 期末	リンク数学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 「チャート式 解法と演習」 共通テスト問題集		<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習 <input type="checkbox"/> 共通テスト対策
1月 ～ 2月	3学期	総合演習		<input type="checkbox"/> 大学入学共通テスト <input type="checkbox"/> 私立大学入試 <input type="checkbox"/> 国公立大学入試

※ 実力テスト：大学入試に向けての模試を実施する。

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

数学  
数学Ⅲ

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数，極限，微分積分についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</li> </ul>	課題考查 定期考查 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	関数，極限，微分積分において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	課題考查 定期考查 等	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が優れている。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</p>
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，自分の得意・不得意な分野を把握し、修練・改善したりしようとしている。</li> </ul>	提出物 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

数学  
数学C

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトル，複素数平面，式と曲線についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</li> </ul>	課題考查 定期考查 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	ベクトル，複素数平面，式と曲線において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	課題考查 定期考查 等	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が優れている。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</p>
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，自分の得意・不得意な分野を把握し、修練・改善したりしようとしている。</li> </ul>	提出物 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
生物		7	高等学校 生物 第一学習社	セミナー生物 図説
【到達目標】		① 生命現象を科学的な視点で理解できるようにする。 ② データを読み、それをふまえた考察ができる能力を養う。 ③ 共通テスト、および個別試験に対応できる学力を養う。		
考查	月	進度（単元）		自己チェック項目
1 学期 中間	4月 ～ 5月	第1章 生物の進化 第2節 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 第2節 進化のしくみ 第2章 生物の系統と進化 第2節 人類と系統と進化 第3章 代謝 第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 生命現象とタンパク質 第4章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 炭酸同化		<input type="checkbox"/> 減数分裂 <input type="checkbox"/> 連鎖と組換え <input type="checkbox"/> ハーディ・ワインベルグの法則 <input type="checkbox"/> 細胞の構造 <input type="checkbox"/> タンパク質の構造 <input type="checkbox"/> 酵素反応と温度 <input type="checkbox"/> 細胞膜の透過性 <input type="checkbox"/> 葉緑体と光合成 <input type="checkbox"/> 光合成色素の分離 <input type="checkbox"/> 光合成のしくみ
		第3節 異化 第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と細胞の進化 第5章 遺伝情報とその発現 第1節 DNAの複製 第2節 遺伝子の発現 第6章 遺伝子の発現調節と発生 第1節 遺伝子の発現調節 第2節 発生と遺伝子の発現		<input type="checkbox"/> 呼吸のしくみ <input type="checkbox"/> 呼吸基質の推定 <input type="checkbox"/> 発酵のしくみ <input type="checkbox"/> DNAの構造 <input type="checkbox"/> DNAの複製 <input type="checkbox"/> 転写と翻訳 <input type="checkbox"/> 原核生物の遺伝子の発現 <input type="checkbox"/> 原核生物における遺伝子の発現調節 <input type="checkbox"/> 真核生物における遺伝子の発現調節 <input type="checkbox"/> 動物の配偶子の形成 <input type="checkbox"/> 母性因子のはたらき <input type="checkbox"/> カエルの発生 <input type="checkbox"/> 発生運命の決定時期
2 学期 中間	9月 ～ 10月	第2章 第1節 生物の系統 第2節 人類の系統と進化 第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 第1節 遺伝子を扱う技術 第2節 遺伝子を扱う技術の応用 第8章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容と発生 第2節 動物の行動		<input type="checkbox"/> 系統と分類 <input type="checkbox"/> 五界説による分類 <input type="checkbox"/> 植物の系統 <input type="checkbox"/> 動物の系統 <input type="checkbox"/> 制限酵素 <input type="checkbox"/> PCR <input type="checkbox"/> 電気泳動法 <input type="checkbox"/> 遺伝子組み換え技術 <input type="checkbox"/> 興奮の伝導 <input type="checkbox"/> 目の構造 <input type="checkbox"/> 耳の構造 <input type="checkbox"/> 興奮の伝達経路 <input type="checkbox"/> 骨格筋の収縮 <input type="checkbox"/> 習得的行動

2 学 期 期 末	11月 ～ 12月	第9章 植物の成長と環境応答 第1節 植物と環境 第2節 植物の一生と植物ホルモン 第10章 生態系のしくみと人間の関わり 第1節 個体群と生物群集 第2節 生態系の物質生産と消費 第3節 生態系と人間生活	<input type="checkbox"/> 植物の配偶子形成と受精 <input type="checkbox"/> 発芽のしくみ <input type="checkbox"/> 光屈性 <input type="checkbox"/> 日長条件と花芽形成 <input type="checkbox"/> 個体数の推定 <input type="checkbox"/> 生存曲線 <input type="checkbox"/> 個体群の相互作用 <input type="checkbox"/> エネルギーの流れ <input type="checkbox"/> 物質循環 <input type="checkbox"/> 生物多様性と絶滅
	1月	参考内容	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

## 生物

### (1) 予習について

予習は基本的に必要ありません。しかし、授業を聞いても理解しにくいことが多い場合は、予習をした方が良いでしょう。

### (2) 授業について

- ・生物は学習内容が多く、授業進度が速いです。定期考査を目安に計画的に問題集を解きましょう。
- ・模試では授業習っていない単元からの出題もあります。12月の模試の偏差値を最終的な目標として、授業で習った範囲をできるようにしていくことが大切です。
- ・分からない箇所があったら積極的に質問をして下さい。
- ・授業の中で実験を行う際には、実験の方法・内容を理解した上で取り組んで下さい。

### (3) 復習および受験勉強について

復習としては、授業で習ったことの確認として問題集を解きましょう。できた問題はチェックをつけて、2回目からはできなかった問題のみを解いていきましょう。分からない問題は、まず解説を読んで、それでも分からなければ、質問に来て下さい。

生物は用語が多く、暗記が重要に思われる傾向にありますが、用語だけを必死に暗記してもなかなかできるようにはなりません。用語や教科書の模式図、イラスト等を見たときにそれらについてどれだけ周辺の知識も含めて思い出して話せるかが重要になります。用語集などを使用する場合は、単語の意味などを隠して、用語の意味や周辺知識を思い出そうに行う勉強をお奨めします。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS生物		5	高等学校 生物 第一学習社	セミナー生物 図説
【到達目標】		① 生命現象を科学的な視点で理解できるようにする。 ② データを読み、それをふまえた考察ができる能力を養う。 ③ 共通テスト、および個別試験に対応できる学力を養う。		
考查	月	進度（単元）		自己チェック項目
1 学期 中間	4月 ～ 5月	第4章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 炭酸同化 第3節 異化 第5章 遺伝情報とその発現 第1節 DNAの複製		<input type="checkbox"/> 葉緑体と光合成 <input type="checkbox"/> 光合成色素の分離 <input type="checkbox"/> 光合成のしくみ <input type="checkbox"/> 呼吸のしくみ <input type="checkbox"/> 呼吸基質の推定 <input type="checkbox"/> 発酵のしくみ <input type="checkbox"/> DNAの複製
1 学期 期末	6月 ～ 7月	第2節 遺伝子の発現 第6章 遺伝子の発現調節と発生 第1節 遺伝子の発現調節 第2節 発生と遺伝子の発現 第2章 生物の系統と進化 第1節 生物の系統と進化		<input type="checkbox"/> 転写と翻訳 <input type="checkbox"/> 原核生物の遺伝子の発現 <input type="checkbox"/> 原核生物における遺伝子の発現調節 <input type="checkbox"/> 真核生物における遺伝子の発現調節 <input type="checkbox"/> 動物の配偶子の形成 <input type="checkbox"/> 母性因子のはたらき <input type="checkbox"/> カエルの発生 <input type="checkbox"/> 発生運命の決定時期 <input type="checkbox"/> 植物の系統 <input type="checkbox"/> 動物の系統
2 学期 中間	9月 ～ 10月	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 第1節 遺伝子を扱う技術 第2節 遺伝子を扱う技術の応用 第8章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容と発生 第2節 動物の行動		<input type="checkbox"/> 制限酵素 <input type="checkbox"/> P C R <input type="checkbox"/> 電気泳動法 <input type="checkbox"/> 遺伝子組み換え技術 <input type="checkbox"/> 興奮の伝導 <input type="checkbox"/> 目の構造 <input type="checkbox"/> 耳の構造 <input type="checkbox"/> 興奮の伝達経路 <input type="checkbox"/> 骨格筋の収縮 <input type="checkbox"/> 習得的行動
2 学期 期末	11月 ～ 12月	第9章 植物の成長と環境応答 第1節 植物と環境 第2節 植物の一生と植物ホルモン 第10章 生態系のしくみと人間の関わり 第1節 個体群と生物群集 第2節 生態系の物質生産と消費 第3節 生態系と人間生活		<input type="checkbox"/> 植物の配偶子形成と受精 <input type="checkbox"/> 発芽のしくみ <input type="checkbox"/> 光屈性 <input type="checkbox"/> 日長条件と花芽形成 <input type="checkbox"/> 個体数の推定 <input type="checkbox"/> 生存曲線 <input type="checkbox"/> 個体群の相互作用 <input type="checkbox"/> 生物多様性と絶滅
	1月	参考内容		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

# 生物

## (1) 予習について

予習は基本的に必要ありません。しかし、授業を聞いても理解しにくいことが多い場合は、予習をした方が良いでしょう。

## (2) 授業について

- ・ 生物は学習内容が多く、授業進度が速いです。定期考査を目安に計画的に問題集を解きましょう。
- ・ 模試では授業習っていない単元からの出題もあります。12 月の模試の偏差値を最終的な目標として、授業で習った範囲をできるようにしていくことが大切です。
- ・ 分からない箇所があったら積極的に質問をして下さい。
- ・ 授業の中で実験を行う際には、実験の方法・内容を理解した上で取り組んで下さい。

## (3) 復習および受験勉強について

復習としては、授業で習ったことの確認として問題集を解きましょう。できた問題はチェックをつけて、2 回目からはできなかった問題のみを解いていきましょう。分からない問題は、まず解説を読んで、それでも分からなければ、質問に来て下さい。

生物は用語が多く、暗記が重要に思われる傾向にありますが、用語だけを必死に暗記してもなかなかできるようにはなりません。用語や教科書の模式図、イラスト等を見たときにそれらについてどれだけ周辺の知識も含めて思い出して話せるかが重要になります。用語集などを使用する場合は、単語の意味などを隠して、用語の意味や周辺知識を思い出そうに行う勉強をお奨めします。

## 化学探究（A2 コース）

### 1. 授業の取り組み方

- 授業のたび、副教材の「チェック&演習」や「セミナー」で問題演習を行い、学習内容の理解度を確認しましょう。
- 授業では指定した副教材を使いますが、それとは別の自身の学習スタイルに合った参考書・問題集を用意しておきましょう。

### 2. 受験に向けて

- 受験勉強を始める際、まずは既習内容の整理をしておきましょう。  
「教科書の何ページで何を学んだのか」「教科書の何ページに何の表・図が載っているのか」を整理することで、効率の良い学習が期待できます。
- 受験勉強では、積極的に「問題演習」を行いましょう。  
受験勉強を始めるとき、化学基礎の教科書の最初にある「純物質と混合物」の内容からノートを綺麗にまとめようとする人をよく見かけます。決して無駄ではありませんが、入試までの期間を考えると、あまり効率が良いとは思えません。入試では「ノートを綺麗にまとめる能力」ではなく、「問題を解く能力」で合否が決まります。問題演習はすんなりと解けないと辛いかもしれませんが、それを繰り返す内に解き方のコツを覚えるでしょう。その解き方のコツを増やすことが受験勉強と言えます。
- なるべく早く、入試の過去問に挑戦してみましょう。  
自身の実力と最終目標との差を確認し、その差を埋めるための学習の計画を立てましょう。



令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
化学探究		3	化学基礎（数研出版）	2022 セミナー 化学基礎（第一学習社） 2024 チェック&演習 化学（数研出版）
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	化学基礎の復習（前半）		<input type="checkbox"/> 物質の構成 <input type="checkbox"/> 物質の構成粒子 <input type="checkbox"/> 粒子の結合
6月 ～ 7月	1学期 期末	化学基礎の復習（後半）		<input type="checkbox"/> 物質と化学反応式 <input type="checkbox"/> 酸と塩基の反応 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応
9月 ～ 10月	2学期 中間	入試対策 問題演習		
11月 ～ 12月	2学期 期末	入試対策 問題演習		
1月		入試対策 問題演習		

# 化学（B コース）

## 1. 授業の取り組み方

- 授業のたび、副教材の「チェック&演習」や「セミナー」で問題演習を行い、学習内容の理解度を確認しましょう。
- 授業では指定した副教材を使いますが、それとは別の自身の学習スタイルに合った参考書・問題集を用意することをおすすめします。

## 2. 受験に向けて

- 受験勉強を始める際、まずは既習内容の整理をしておきましょう。  
特に化学基礎の内容はとても大切です。授業で演習が始まる前に、化学基礎の内容はある程度完璧な状態にしておきましょう。演習ではわかっている前提で話が進むことがほとんどです。
- 受験勉強では、積極的に「問題演習」を行いましょう。  
受験勉強を始めるとき、化学基礎の教科書の最初にある「純物質と混合物」の内容からノートを綺麗にまとめようとする人をよく見かけます。決して無駄ではありませんが、入試までの期間を考えると、あまり効率が良いとは思えません。入試では「ノートを綺麗にまとめる能力」ではなく、「問題を解く能力」で合否が決まります。問題演習はすんなりと解けないと辛いかもしれませんが、それを繰り返す内に解き方のコツを覚えるでしょう。その解き方のコツを増やすことが受験勉強と言えます。
- なるべく早く、入試の過去問に挑戦してみましょう。  
自身の実力と最終目標との差を確認し、その差を埋めるための学習の計画を立てましょう。
- 各種補習を有効活用しましょう。どの分野が苦手なのかを自己分析することが、苦手克服への第一歩です。積極的に質問をし、苦手の克服に努めましょう。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等	
化学		3	化学（数研出版）	2023 セミナー 化学（第一学習社） 2024 チェック＆演習 化学（数研出版）	
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目	
4 月 ～ 5 月	1 学期 中間	第 4 編 有機化合物			
		第 1 章 有機化合物の分類と分析 1. 有機化合物の特徴と分類 2. 有機化合物の分析	<input type="checkbox"/> 有機化合物の特徴 <input type="checkbox"/> 有機化合物の分類 <input type="checkbox"/> 有機化合物の分析の手順	<input type="checkbox"/> 有機化合物の分離と精製 <input type="checkbox"/> 成分元素の検出 <input type="checkbox"/> 元素分析	
		第 2 章 脂肪族炭化水素 1. 飽和炭化水素 2. 不飽和炭化水素	<input type="checkbox"/> アルカン <input type="checkbox"/> 構造異性体 <input type="checkbox"/> アルカンの立体構造 <input type="checkbox"/> アルカンの反応 <input type="checkbox"/> シクロアルカン	<input type="checkbox"/> アルケン <input type="checkbox"/> アルケンの立体構造 <input type="checkbox"/> アルケンの反応 <input type="checkbox"/> シクロアルケン <input type="checkbox"/> アルキンとその反応	
		第 3 章 アルコールと関連化合物 1. アルコールとエーテル 2. アルデヒドとケトン 3. カルボン酸 4. エステルと油脂	<input type="checkbox"/> アルコール <input type="checkbox"/> アルコールの性質・反応 <input type="checkbox"/> さまざまなアルコール <input type="checkbox"/> エーテル <input type="checkbox"/> カルボニル化合物 <input type="checkbox"/> アルデヒド <input type="checkbox"/> ケトン <input type="checkbox"/> ヨードホルム反応	<input type="checkbox"/> カルボン酸 <input type="checkbox"/> ギ酸と酢酸 <input type="checkbox"/> ジカルボン酸 <input type="checkbox"/> 鏡像異性体 <input type="checkbox"/> エステル <input type="checkbox"/> 油脂 <input type="checkbox"/> セッケン <input type="checkbox"/> 合成洗剤	
		第 4 章 芳香族化合物 1. 芳香族炭化水素 2. フェノール類 3. 芳香族カルボン酸 4. 芳香族アミンとアゾ化合物	<input type="checkbox"/> ベンゼンとベンゼン環 <input type="checkbox"/> 芳香族炭化水素 <input type="checkbox"/> ベンゼンの反応 <input type="checkbox"/> フェノール類 <input type="checkbox"/> フェノールの反応	<input type="checkbox"/> フェノールの合成 <input type="checkbox"/> 芳香族カルボン酸 <input type="checkbox"/> 芳香族アミン <input type="checkbox"/> アゾ化合物	
		6 月 ～ 7 月	1 学期 期末	第 5 編 高分子化合物	
第 1 章 高分子化合物の性質 1. 高分子化合物の構造と性質	<input type="checkbox"/> 高分子化合物の分類 <input type="checkbox"/> 高分子化合物の構造			<input type="checkbox"/> 高分子化合物が生成する反応 <input type="checkbox"/> 高分子化合物の特徴	
第 2 章 天然高分子化合物 1. 天然有機化合物の種類 2. 単糖・二糖 3. 多糖 4. アミノ酸 5. タンパク質 6. 核酸	<input type="checkbox"/> 単糖類・二糖類 <input type="checkbox"/> デンプン・グリコーゲン <input type="checkbox"/> セルロース <input type="checkbox"/> セルロースの誘導体 <input type="checkbox"/> アミノ酸 <input type="checkbox"/> ペプチド <input type="checkbox"/> タンパク質の構造・分類			<input type="checkbox"/> タンパク質の性質 <input type="checkbox"/> 酵素 <input type="checkbox"/> 核酸の構造 <input type="checkbox"/> DNAとRNA	
第 3 章 合成高分子化合物 1. 合成高分子化合物 2. 合成繊維 3. 合成樹脂 4. 天然ゴムと合成ゴム	<input type="checkbox"/> 縮合重合の合成繊維 <input type="checkbox"/> 開環重合の合成繊維 <input type="checkbox"/> 付加重合の合成繊維 <input type="checkbox"/> 熱可塑性樹脂 <input type="checkbox"/> 熱硬化性樹脂			<input type="checkbox"/> イオン交換樹脂 <input type="checkbox"/> 天然ゴム <input type="checkbox"/> 合成ゴム	
9 月 ～ 10 月	2 学期 中間				
11 月 ～ 12 月	2 学期 期末	入試対策 問題演習			
1 月 ～ 3 月	3 学期 学年末	入試対策 問題演習			

## 令和 6 年度科目履修案内 3 年生 S S 理数化学

### 1. 授業の取り組み方

- 授業のたび、副教材の「チェック & 演習」や「セミナー」で問題演習を行い、学習内容の理解度を確認しましょう。
- 授業では指定した副教材を使いますが、それとは別の自身の学習スタイルに合った参考書・問題集を用意することをおすすめします。

### 2. 受験に向けて

- 受験勉強を始める際、まずは既習内容の整理をしておきましょう。  
特に化学基礎の内容はとても大切です。授業で演習が始まる前に、化学基礎の内容はある程度完璧な状態にしておきましょう。演習ではわかっている前提で話が進むことがほとんどです。
- 受験勉強では、積極的に「問題演習」を行いましょう。  
受験勉強を始めるとき、化学基礎の教科書の最初にある「純物質と混合物」の内容からノートを綺麗にまとめようとする人をよく見かけます。決して無駄ではありませんが、入試までの期間を考えると、あまり効率が良いとは思えません。入試では「ノートを綺麗にまとめる能力」ではなく、「問題を解く能力」で合否が決まります。問題演習はすんなりと解けないと辛いかもしれませんが、それを繰り返す内に解き方のコツを覚えるでしょう。その解き方のコツを増やすことが受験勉強と言えます。
- なるべく早く、入試の過去問に挑戦してみましょう。  
自身の実力と最終目標との差を確認し、その差を埋めるための学習の計画を立てましょう。
- 各種補習を有効活用しましょう。どの分野が苦手なのかを自己分析することが、苦手克服への第一歩です。積極的に質問をし、苦手の克服に努めましょう。
-

# 令和 6 年度 年間学習計画表

科目名等		単位 数	教科書名	副教材等		
化学		4	化学（数研出版）	2023 セミナー 化学（第一学習社） 2024 チェック&演習 化学（数研出版） 化学図録（数研出版）		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目		
4 月 ～ 5 月	1 学期 中間	第 3 編 無機物質				
		第 1 章 遷移元素 1. 遷移金属の特徴	<input type="checkbox"/> 鉄 <input type="checkbox"/> 銅 <input type="checkbox"/> 銀・金 <input type="checkbox"/> 亜鉛	<input type="checkbox"/> クロム・マンガン <input type="checkbox"/> その他の遷移金属 <input type="checkbox"/> 金属イオンの分離・確認		
		第 4 編 有機化合物				
		第 1 章 有機化合物の分類と分析 1. 有機化合物の特徴と分類 2. 有機化合物の分析	<input type="checkbox"/> 有機化合物の特徴 <input type="checkbox"/> 有機化合物の分類 <input type="checkbox"/> 有機化合物の分析の手順	<input type="checkbox"/> 有機化合物の分離と精製 <input type="checkbox"/> 成分元素の検出 <input type="checkbox"/> 元素分析		
6 月 ～ 7 月	1 学期 期末	第 2 章 脂肪族炭化水素 1. 飽和炭化水素 2. 不飽和炭化水素	<input type="checkbox"/> アルカン <input type="checkbox"/> 構造異性体 <input type="checkbox"/> アルカンの立体構造 <input type="checkbox"/> アルカンの反応 <input type="checkbox"/> シクロアルカン	<input type="checkbox"/> アルケン <input type="checkbox"/> アルケンの立体構造 <input type="checkbox"/> アルケンの反応 <input type="checkbox"/> シクロアルケン <input type="checkbox"/> アルキンとその反応		
		第 3 章 アルコールと関連化合物 1. アルコールとエーテル 2. アルデヒドとケトン 3. カルボン酸 4. エステルと油脂	<input type="checkbox"/> アルコール <input type="checkbox"/> アルコールの性質・反応 <input type="checkbox"/> さまざまなアルコール <input type="checkbox"/> エーテル <input type="checkbox"/> カルボニル化合物 <input type="checkbox"/> アルデヒド <input type="checkbox"/> ケトン <input type="checkbox"/> ヨードホルム反応	<input type="checkbox"/> カルボン酸 <input type="checkbox"/> ギ酸と酢酸 <input type="checkbox"/> ジカルボン酸 <input type="checkbox"/> 鏡像異性体 <input type="checkbox"/> エステル <input type="checkbox"/> 油脂 <input type="checkbox"/> セッケン <input type="checkbox"/> 合成洗剤		
		第 4 章 芳香族化合物 1. 芳香族炭化水素 2. フェノール類 3. 芳香族カルボン酸 4. 芳香族アミンとアゾ化合物	<input type="checkbox"/> ベンゼンとベンゼン環 <input type="checkbox"/> 芳香族炭化水素 <input type="checkbox"/> ベンゼンの反応 <input type="checkbox"/> フェノール類 <input type="checkbox"/> フェノールの反応	<input type="checkbox"/> フェノールの合成 <input type="checkbox"/> 芳香族カルボン酸 <input type="checkbox"/> 芳香族アミン <input type="checkbox"/> アゾ化合物		
		第 5 編 高分子化合物				
		第 1 章 高分子化合物の性質 1. 高分子化合物の構造と性質	<input type="checkbox"/> 高分子化合物の分類 <input type="checkbox"/> 高分子化合物の構造	<input type="checkbox"/> 高分子化合物が生成する反応 <input type="checkbox"/> 高分子化合物の特徴		
9 月 ～ 10 月	2 学期 中間					

		第2章 天然高分子化合物 1. 天然有機化合物の種類 2. 単糖・二糖 3. 多糖 4. アミノ酸 5. タンパク質 6. 核酸	<input type="checkbox"/> 単糖類・二糖類 <input type="checkbox"/> デンプン・グリコーゲン <input type="checkbox"/> セルロース <input type="checkbox"/> セルロースの誘導体 <input type="checkbox"/> アミノ酸 <input type="checkbox"/> ペプチド <input type="checkbox"/> タンパク質の構造・分類	<input type="checkbox"/> タンパク質の性質 <input type="checkbox"/> 酵素 <input type="checkbox"/> 核酸の構造 <input type="checkbox"/> DNAとRNA
		第3章 合成高分子化合物 1. 合成高分子化合物 2. 合成繊維 3. 合成樹脂 4. 天然ゴムと合成ゴム	<input type="checkbox"/> 縮合重合の合成繊維 <input type="checkbox"/> 開環重合の合成繊維 <input type="checkbox"/> 付加重合の合成繊維 <input type="checkbox"/> 熱可塑性樹脂 <input type="checkbox"/> 熱硬化性樹脂	<input type="checkbox"/> イオン交換樹脂 <input type="checkbox"/> 天然ゴム <input type="checkbox"/> 合成ゴム
11月～12月	2学期期末	入試対策 問題演習		
1月		入試対策 問題演習		

# 令和6年度 普通科3年生 物理

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
物理		7	高等学校 物理（啓林館）	リードα物理(数犬種パ) チェック&演習 物理(数研出版)
【到達目標】		① 物理の学習を通して自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解する。 ② 自然を探究する能力と態度を身に付け、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を身につける。		
【学習の仕方】		① 授業で学習した内容について、教科書にある問題や問題集の問題を解くこと。 ② 補習に参加するなどしてレベルの高い問題にも触れた方がよい。 ③ 1学期は物理基礎も含めて、法則・公式を確実に理解することを目標とし、夏休み以降徐々に発展問題に移行できるとよい。		
【学習上の留意点】		① 単なる公式の丸暗記ではなく、その式の意味を常に考えるようにすること。 ② 問題に取り組むときは、どのような物理現象なのかをイメージしながら考えるようにすること。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	平面内の運動 落体の運動 剛体のつり合い 運動量の保存・反発係数 円運動・慣性力・単振動 万有引力		<input type="checkbox"/> ① プロセスに正答できる <input type="checkbox"/> ② 基本例題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展問題は解ける
6月 ～ 7月	1学期 期末	気体の状態方程式 気体分子の熱運動・熱力学第1法則 気体の状態変化と熱・仕事 正弦波の表し方・波の伝わり方 音の性質・ドップラー効果 光の性質・レンズと球面鏡 光の回折と干渉 静電気・電界・電位・コンデンサー 直流・直流回路・半導体		<input type="checkbox"/> ① プロセスに正答できる <input type="checkbox"/> ② 基本例題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展問題は解ける
9月 ～ 10月	2学期 中間	磁気力と電界 電流がつくる磁界 電流が磁界から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導の法則 磁界中を運動する導体棒 自己誘導と相互誘導・交流 電気振動と電磁波		<input type="checkbox"/> ① プロセスに正答できる <input type="checkbox"/> ② 基本例題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展問題は解ける <input type="checkbox"/> ⑤ BS模試問題が5割は解ける <input type="checkbox"/> ⑥ BS模試問題が7割は解ける
11月 ～ 12月	2学期 期末	電子の電荷と質量 光の粒子性・X線 粒子の波動性 原子モデル・原子核と放射線 核反応と核エネルギー 素粒子と宇宙 共通テスト実戦演習		<input type="checkbox"/> ① プロセスに正答できる <input type="checkbox"/> ② 基本例題は解ける <input type="checkbox"/> ③ 基本問題は解ける <input type="checkbox"/> ④ 発展問題は解ける <input type="checkbox"/> ⑤ BS模試問題が5割は解ける <input type="checkbox"/> ⑥ BS模試問題が7割は解ける
1月	3学期	入試対策問題演習		<input type="checkbox"/> ① 志望校の入試過去問が5割は解ける <input type="checkbox"/> ② 志望校の入試過去問が7割は解ける

令和6年度 理数科3年生 SS 理数物理

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS理数物理		5	高等学校 物理（啓林館）	リードα 物理（数研出版） チェック&演習 物理（数研出版）
【到達目標】		① 身近な物理現象と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ② 科学的に探究する力を育み、物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようになる。		
【学習の仕方】		① 教科書の「文章」だけではなく、「イラスト」や「グラフ」、「公式」の意味を考えながら、予習・復習しましょう。 ② 積極的に問題演習をしましょう。		
【学習上の留意点】		① 問題を解くことができ、初めて内容を理解したことになります。問題が解けないうちはとても辛いと思いますが、できるまで何度も繰り返して乗り越えましょう。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまう。わからないことは後回しにせず、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“現実（リアル）”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。		
月	テスト	進度（単元）		
4月 ～ 5月	1学期 中間	【第3部】 波	【第3章】光 ① 光の性質 ② レンズと球面鏡 ③ 光の回折と干渉	
6月 ～ 7月	1学期 期末	【第4部】 電気と磁気	【第1章】電界と電位 ① 静電気 ② 電界 ③ 電位 ④ コンデンサー	【第2章】電流 ① 電流 ② 直流回路 ③ 半導体
9月 ～ 10月	2学期 中間		【第3章】電流と磁界 ① 磁気力と磁界 ② 電流がつくる磁界 ③ 電流が磁界から受ける力 ④ ローレンツ力	【第4章】電磁誘導と電磁波 ① 電磁誘導の法則 ② 磁界中を運動する導体棒 ③ 自己誘導と相互誘導 ④ 交流 ⑤ 電気振動と電磁波
11月 ～ 12月	2学期 期末	【第5部】 原子・分子の世界	【第1章】電子と光 ① 電子の電荷と質量 ② 光の粒子性 ③ X線 ④ 粒子の波動性	【第2章】原子・原子核・素粒子 ① 原子モデル ② 原子核と放射線 ③ 核反応と核エネルギー ④ 素粒子と宇宙
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試対策問題演習		



科目名等		単位数	教科書名		副教材等
地学基礎		3	高等学校 地学基礎（第一学習社）		セミナー 地学基礎（第一学習社）
【到達目標】		① 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ② 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ③ 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
【学習の仕方】		① 教科書の「文章」だけではなく、「イラスト」や「グラフ」の意味を考えながら、予習・復習をしましょう。 ② 関連する用語はまとめて覚えましょう。			
【学習上の留意点】		① 問題を通して、覚えるべき用語を把握しましょう。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまう。わからないことは後回しにせずに、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“現実（リアル）”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。			
月	テスト	進 度（単元）			
4月 ～ 5月	1学期 中間	【第1章】 地球のすがた	【第1節】地球の概観 【第2節】プレートの運動		
6月 ～ 7月	1学期 期末	【第2章】 地球の活動	【第1節】地震 【第2節】火山活動		
		【第5章】 生物の変遷と 地球環境	【第1節】地層と化石		
9月 ～ 10月	2学期 中間		【第3章】 大気と海洋	【第2節】地球と生物の変遷	
		【第1節】地球のエネルギー収支 【第2節】大気と海水の運動			
11月 ～ 12月	2学期 期末	【第4章】 宇宙と地球	【第1節】宇宙と太陽の誕生 【第2節】太陽系と地球の誕生		
		【第6章】 地球の環境	【第1節】地球の環境 【第2節】日本の自然環境		
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試対策問題演習			

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

理科  
生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習に取り組む態度	・生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	①②③ 提出、内容が良好	①②③ 提出できている	①②③ 未提出

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

理科  
SS生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習に取り組む態度	・生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	①②③ 提出、内容が良好	①②③ 提出できている	①②③ 未提出

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

理科  
化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の構成・構成粒子, 粒子の結合, 物質と化学反応式, 酸と塩基の反応, 酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。</li> <li>・日常生活や社会との関連を図りながら, 化学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</li> </ul>	小テスト 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の構成, 物質の変化とその利用について, それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。</li> <li>・物質とその変化を対象に, 概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。</li> </ul>	小テスト レポート 定期考査 行動観察等	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね、満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
学習主体に的取にり組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質とその変化について対して主体的に関わり, 化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>	再テスト テスト直し レポート 定期考査 行動観察等	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

理科  
化学探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成・構成粒子, 粒子の結合, 物質と化学反応式, 酸と塩基の反応, 酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。</li> <li>日常生活や社会との関連を図りながら, 化学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</li> </ul>	小テスト 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成, 物質の変化とその利用について, それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。</li> <li>物質とその変化を対象に, 概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。</li> </ul>	小テスト レポート 定期考査 行動観察等	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね、満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
学習主体に的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質とその変化について対して主体的に関わり, 化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>	再テスト テスト直し レポート 定期考査 行動観察等	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

理科  
SS理数化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成・構成粒子, 粒子の結合, 物質と化学反応式, 酸と塩基の反応, 酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。</li> <li>日常生活や社会との関連を図りながら, 化学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</li> </ul>	小テスト 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成, 物質の変化とその利用について, それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。</li> <li>物質とその変化を対象に, 概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。</li> </ul>	小テスト レポート 定期考査 行動観察等	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね、満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
学習主体に的取にり組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質とその変化について対して主体的に関わり, 化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>	再テスト テスト直し レポート 定期考査 行動観察等	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

理科  
SS理数物理（3年生／理数科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	テスト  課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト  課題提出  授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が良好である。  授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が普通である。  授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が不良である。  授業における該当内容の取り組みが不良である。
学習主体に取的に組み込む態度	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出  授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。  授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。  授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。  授業における該当内容の意欲が不良である。

# 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

理科  
地学基礎（3年生／普通科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	地球や地球を取り巻く環境についての観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	テスト  課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト  課題提出  授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が良好である。  授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が普通である。  授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。  課題における該当内容の理解が不良である。  授業における該当内容の取り組みが不良である。
学習主体に取的に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出  授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。  授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。  授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。  授業における該当内容の意欲が不良である。



## 5 体育（第3学年）

### （１）体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

### （２）3 学年の学習について

#### 1. 指導目標

- ・ 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して、生涯にわたってスポーツに取り組む知識と技能を身につける。
- ・ 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう各種目のルールや試合運営も学ぶ。

#### 2. 評価について

授業態度（積極的な活動、体力の向上・技能の習得）、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループノートの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の3つの観点から総合的に評価する。

##### 知識・技能

- ・ 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。
- ・ 運動の技能の構造と運動の学び方を理解している。
- ・ 各競技のルール、練習方法、戦術について理解をしている。

##### 思考・判断・表現

- ・ 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考し判断している。
- ・ 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

##### 主体的に学習に取り組む態度

- ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。
- ・ 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片づけ、施設・設備の整備を積極的行ったりしている。
- ・ 健康や安全に留意して、自ら運動をしようとしている。

### 3. 授業について

1) 単位数 普通科2単位・理数科2単位

2) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

### 3) その他

- ・4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、男子短パン、女子ハーフパンツ。
- ・禁止事項：タイツ、ストッキング、アクセサリ類の着用。
- ・体育用のソックスを用意。
- ・運動制限や健康上の不安等がある場合、必ず担当教諭に相談すること。

### (3) 学習内容

領域	領域の内容・単元		第1学年		第2学年		第3学年	備考
			男	女	男	女	男女共修	
体育理論			○	○	○	○	●	
体づくり	体力を高める運動(持久走)		○	○	○	○	●	
	体をほぐす運動		○	○	○	○	●	
陸上競技	長距離走		○	○	○	○	●	
	三種競技(走・跳・投)		○	○			■※1	
水泳	各種泳法		○	○	○	○		※2
	遠泳・競泳(複数の泳法)		○	○	○	○	■※1	※3
武道	柔道		○		○		■※1	
器械運動	マット運動			○	○		■※1	※4
	跳び箱運動			○	○			
	鉄棒運動			○	○			
球技	ゴール型	バスケットボール		○	○		■※1	
		ハンドボール	○			○	■※1	
		サッカー	○	○			■※1	
	ネット型	バレーボール			○	○	■※1	
		テニス					■※1	
		バドミントン					■※1	
		卓球					■※1	
	ベースボール型	ソフトボール					■※1	

※1 選択授業

※2 1年次にクロール・平泳ぎ、2年次に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年次は2種類の泳法・2年次は4種類の泳法で行う

※4 3種目の運動の中から1種目または2・3種目を行う

#### (4) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
体育		2	現代高等保健体育	
【到達目標】		<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して、生涯にわたってスポーツに取り組む知識と技能が身につく。</li> <li>公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度が身につく。</li> <li>自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。</li> <li>安全に留意し協力して課題達成ができるよう各種目のルールを理解し試合が運営できる。</li> </ul>		
学期	月	領域	内容	自己チェック項目
第一学期	4月 上旬	体育理論（各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方）		
	中旬	陸上競技	持久走 男子 1500m	
	下旬		女子 1000m	
	5月 上旬	前期選択種目	陸上競技・水泳・器械運動・武道 球技の中から1種目選択	
	中旬			
	下旬			
	6月 上旬			
	中旬			
	下旬			
	7月 上旬			
第二学期	9月 上旬	後期選択種目	陸上競技・水泳・器械運動・武道 球技の中から1種目選択	
	中旬			
	下旬			
	10月 上旬	体育理論（ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方）	長距離走 外周走・校外走等 男子 約5km・女子 約4km	
	中旬			
	下旬			
	11月 上旬	陸上競技		
	中旬			
	下旬			
第三学期	12月 上旬	後期選択種目		
	中旬			
	1月 上旬	体作り運動	体力を高める運動	
	中旬			
	下旬		体ほぐし運動	
	2月 上旬	家庭研修		
	中旬			
	下旬			
	3月 上旬			
	中旬			

#### (5) その他

## 5 スポーツⅡ（第3学年 選択授業）

### （１）スポーツⅡとは

「スポーツⅡ」は、それぞれのスポーツの型に応じた攻防で個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競い合うといった特性がある。種目についての成り立ちや変遷などの歴史や現在のルール、技術の構造及び技能の高め方、技術分析、初心者への指導法、審判法、競技会の開催の仕方やその際の役割分担などについて科学的、社会的、文化的な側面から教養を身に付ける。

また、球技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにすることを目指す。

更に、自己やチームに適した目標や課題を適切に設定して練習に取り組み、その課題を解決できるようにし、卒業後においても、「する、みる、支える、知る」といった視点で自己に適したスポーツとのかかわりを継続できるようにする。そのため、専門的な知識及び目的に応じた技能を獲得し、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力及び主体的に学習に取り組む態度をバランスよく育成する。

### （２）スポーツⅡの指導目標

球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。

### （３）学習内容

#### （１）ゴール型球技

ゴール型球技では、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、を取り上げる。チームや個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。その際、手でボールを扱うバスケットボール、ハンドボール、主として足でボールを扱うサッカー、の各種目の特性を踏まえ、ボール操作とボールを持たないときの動きを中心に扱う。

#### （２）ネット型球技

ネット型球技では、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンを取り上げる。チームやダブルス、個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。その際、手でボールを扱い、チームで複数回の接触によって攻撃を組み立てるバレーボール、ラケットでボールを扱い、一回の返球によって攻撃を組み立て打ち合うテニス、卓球、バドミントンの各種目の特性を踏まえ、ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きを中心に扱う。

#### （３）ベースボール型球

ベースボール型球技では、ソフトボールを取り上げ、個人やチームの技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。その際、ボールがやや大きく塁間が短いソフトボールの特性を踏まえ、バット操作やボール操作とボールを持たないときの動きを中心に扱う。

#### （４）類型共通

身に付けた技能に応じて攻防が展開できるように系統的、計画的に練習ができるようにする。また、技能と体力の関連を踏まえ、各種目に高度な技能の習得に効果的な科学的練習法や体力トレーニングも含めて扱う。

#### (4) 評価

##### 1. 知識・技能については、次の点に配慮して評価する

###### (類型共通の知識)

技術、戦術、作戦及びその高め方、合理的な練習法や練習計画の立て方、体力の高め方、課題解決の方法、審判法や競技会の企画・運営の仕方、初歩的な指導法、運動観察や動作分析の仕方などを理解することができる知識。

###### (1) ゴール型球技

- ボール操作の動き：ドリブルやパス、ボールを保持したランニングなどによってボールを保持したり相手をかわしたりして攻防を展開する技能。
- ボールを持たないときの動き：パスを受けるために空間に走り込んだり仲間をサポートしたりする動きによって、組織的に攻防を展開する技能。

###### (2) ネット型球技

- ボールや用具の操作：サービス、レシーブ、スマッシュ、カットなどの技能を用いて、返球場所をコントロールしたり、緩急や前後の空間への返球、ボールの回転の変化などによって、体勢を整えたり、相手の隙をついたりして攻防を展開する技能。
- ボールを持たないときの動きで：空間を埋めたり仲間をサポートしたりする動きによって、仲間と連携して攻防を展開する技能。

###### (3) ベースボール型球技

- バット操作やボール操作：バッティング、バントなどの技術を用いて、打ち返す方向をコントロールしてヒットをねらったり、仲間の進塁をサポートしたりして得点につなげる攻撃と、フライやゴロに対する捕球動作と送球動作などの守備の技能。
- ボールを持たないときの動き：離塁やタッチアップなどの技術を用いて次の塁をねらう動きによって進塁する攻撃と、打球に応じた守備位置の移動や仲間と連携して中継プレイやバックアップをする守備の技能。

##### 2. 主体的に学習に取り組む態度については、次の点に配慮して評価する

- 球技の学習に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、競技のルールや審判の判定を遵守しようとする。
- 試合後にお互いを讃え合うなどのマナーやフェアプレイの考え方を大切にしようとする。
- 互いの技術の上達に向けて助け合い高め合おうとする。
- 審判や記録などの役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする。

##### 3. チームの作戦や戦術の話合いについては、次の点に配慮して評価する

- 自分の意見や仲間の意見を調整して合意形成に貢献しようすることができる。
- 体調や気候の変化に応じて運動量を調整したり危険を予見して回避行動をとったりするなどによって、健康・安全を確保し事故防止を図ることができる。

##### 4. 事故防止については、次の点に配慮して評価する

- ゴール型球技では、攻防入り交じってボールを手や足で奪い合う特性から接触による事故。
- ネット型球技では、コート内の味方同士の接触や用具操作にかかわる事故。
- ベースボール型及びターゲット型球技では、バットやボールによる事故。
- 起きやすいことなどを踏まえて事故事例や防止策、技能に応じた練習の選択、天候の変化や炎天下などの自然環境の中での安全の確保、応急手当の仕方などの態度形成のもととなる知識について理解させ、危険を回避する態度を高めるようにする。

5. 思考・判断・表現では、次の点に配慮して評価する

- 課題解決の向け、主体的に思考し判断し実践することや、動きの妥当性や改善策を他者に言葉や動作などで表現したり、理論的に伝えることができる。

(5) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
スポーツⅡ		2	現代高等保健体育	
【到達目標】		球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。		
学期	月	内容		自己チェック項目
第一学期	4月 上旬	前期選択種目・後期選択種目の決定 ※ゴール型・ネット型・バースポール型の中から前期1種目・後期1種目を選択する 前期選択種目の実施		
	4月 中旬			
	4月 下旬			
	5月 上旬			
	5月 中旬			
	5月 下旬			
	6月 上旬			
第二学期	6月 中旬			
	6月 下旬			
	7月 上旬			
	9月 上旬	後期選択種目の実施		
	9月 中旬			
	9月 下旬			
	10月 上旬			
	10月 中旬			
	10月 下旬			
第三学期	11月 上旬			
	11月 中旬			
	11月 下旬			
	12月 上旬			
	12月 中旬			
	1月 上旬			
	1月 中旬			
第三学期	1月 下旬			
	2月 上旬	家庭研修		
	2月 中旬			
	2月 下旬			
	3月 上旬			
	3月 中旬			

(6) その他

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

保健体育  
体育

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題の解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。</li> <li>自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。</li> <li>運動技能の構造と運動の学び方理解している。</li> <li>各競技のルール、練習方法、戦術について、言ったり書きだしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>体力の向上</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫改善 (単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技における運動技能の習得</li> <li>自己の運動能力に応じた運動強度</li> <li>各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解</li> </ul> <p>以上の項目を8割以上達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技における運動技能の習得</li> <li>自己の運動能力に応じた運動強度</li> <li>各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解</li> </ul> <p>以上の項目を4割以上8割未満達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技における運動技能の習得</li> <li>自己の運動能力に応じた運動強度</li> <li>各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解</li> </ul> <p>以上の項目が4割未満で達成できている。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。</li> <li>課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫改善 (単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に積極的に取り組んでいる。</li> <li>自己の思考や判断について表現力が優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に取り組んでいる。</li> <li>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、課題解決に取り組むことが乏しい。</li> <li>自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</li> </ul>
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。</li> <li>礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付け、施設・設備の整備を積極的行ったりしている。</li> <li>健康・安全に留意して、自ら運動をしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫改善 (単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準である。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が乏しい。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。</li> </ul>

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

保健体育  
保健

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人及び社会生活における健康、安全について理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>※応急手当について、習得した知識及び技能を適切に実践することができる。(1年)</li> </ul>	課題研究 定期考査等 心肺蘇生法 (1年)	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が8割以上達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割以上8割未満達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割未満達成できている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康について、自他や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。</li> </ul>	課題研究 定期考査等	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究による自己の思考や判断について、表現力が優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究による自己の思考や判断について、表現力が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究による自己の思考や判断について、表現力が乏しい。</li> </ul>
学習主体に取的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の健康やそれを支える環境づくり及び安全な社会の形成に興味を持ち、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>課題研究や学習活動を振り返り、その結果を考察し、評価及び改善しようとしている。</li> </ul>	課題研究 自己評価 他者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が乏しい。</li> </ul>



## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

保健体育  
スポーツⅡ

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技の特性を理解し、その運動の行い方や学び方、ルールや戦術、健康や安全の確保等、スポーツを継続的に実践する多様な関わり方を理解している。</li> <li>習得した技能に応じて攻防を展開したり、仲間と連携し組織的な攻防を展開することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>体力の向上</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫・改善(単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技の技能、戦術、作戦及びその高め方、課題解決に向けた合理的な練習法や練習計画の立て方、審判法や競技会の企画、運営の仕方、指導法の理解</li> <li>各競技における運動技能の習得</li> </ul> <p>以上の項目を8割以上達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技の技術、戦術、作戦及びその方、課題解決に向けた合理的な練習法や練習計画の立て方、審判法や競技会の企画、運営の仕方、指導法の理解</li> <li>各競技における運動技能の習得</li> </ul> <p>以上の項目を4割以上8割未満達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技の技術、戦術、作戦及びその方、課題解決に向けた合理的な練習法や練習計画の立て方、審判法や競技会の企画、運営の仕方、指導法の理解</li> <li>各競技における運動技能の習得</li> </ul> <p>以上の項目を4割未満達成できている。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向け、主体的に思考し判断し実践することができる。また、他者に言葉や動作などでその内容を表現したり、理論的に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫・改善(単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的なデータをもとに、動きの妥当性や改善策を他者に伝えることや、運営方法を提案することなどに優れている。</li> <li>自己の思考や判断について表現力が優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的なデータをもとに、動きの妥当性や改善策を他者に伝えることや、運営方法を提案することなどが標準である。</li> <li>自己の思考や判断について表現力が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的なデータをもとに、動きの妥当性や改善策を他者に伝えることや、運営方法を提案することなどが乏しい。</li> <li>自己の思考や判断について表現力が乏しい。</li> </ul>
学習主体に取的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の体力や技能に配慮し、主体的に運動に取り組むとともに、事故の未然防止に努めるなど、健康や安全に留意している。</li> <li>自分やグループの意見を調整し、合意形成に努めている。さらに、互いの技術を向上させるために助け合おうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫・改善(単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に意欲を持ち、個々の挑戦課題を尊重し、互いに助け合いながら活動する行動が優れている。</li> <li>多様な参加者と共に効果的な体力の高め方や事故防止など、健康や安全に十分留意している。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に意欲を持ち、個々の挑戦課題を尊重し、互いに助け合いながら活動する行動が標準である。</li> <li>多様な参加者と共に効果的な体力の高め方や事故防止など、健康や安全に留意している。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に意欲を持ち、個々の挑戦課題を尊重し、互いに助け合いながら活動する行動が乏しい。</li> <li>多様な参加者と共に効果的な体力の高め方や事故防止など、健康や安全に留意する態度に改善が望まれる。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。</li> </ul>

# 音楽

## 1 演奏研究

資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することがねらいです。

## 2 目標

音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目指す。

## 3 評価の観点

- 音楽への関心・意欲・態度
- 音楽表現の創意工夫
- 音楽表現の技能
- 鑑賞の能力

## 4 3 学年の学習内容

### 【表現】

歌唱・器楽

- ・表現に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに表現を創意工夫する
- ・楽曲の内容や様々な表現形態による表現の固有性や多様性を理解する
- ・様々な音素材や様式、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する
- ・創意工夫や表現上の効果を生かした表現をするために必要な技術を身に付ける

### 【鑑賞】

- ・鑑賞に関わる知識を総合的に働かせながら、曲や演奏に対する評価とその根拠、文化や芸術としての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴く
- ・音楽の美しさと音楽の構造との関わり、芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化との関わり、現代の我が国及び諸外国の音楽の特徴、音楽と人間の感情との関わり及び社会における音楽に関わる人々の役割について理解する

## 5 その他

- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える
- ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する
- ・授業内で演奏発表を行い、お互いの演奏を聴きあう

第3学年

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
演奏研究		2		
【到達目標】		① 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせられるようにする ② 生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する		
【学習上の留意点】		① 授業への取り組みや提出物も重視しています ② 期考査は実施しませんが、授業内に実技テストや発表があります		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月～ 5月	1学期 中間 未実施	≪表現≫ 音楽de自己紹介		<input type="checkbox"/> 自分の好きな音楽をプレゼンテーションすることで、音楽の見方・考え方を再認識できたか <input type="checkbox"/> 仲間のプレゼンテーションから、音楽の見方・考え方の視点を広げることができたか
6月～ 7月	1学期 期末 未実施	≪鑑賞≫ 西洋音楽史 作曲家調べ、発表		<input type="checkbox"/> 時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす音楽文化に広く関心をもち、それぞれの良さを感じ取れたか。 <input type="checkbox"/> 作曲家について調べプレゼンテーションをし、様々な作曲家や音楽に触れられたか
9月～ 10月	2学期 中間 未実施	≪鑑賞≫ 西洋音楽史 作曲家調べ、発表（続き） ≪表現≫ 演奏発表に向け練習		<input type="checkbox"/> 時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす音楽文化に広く関心をもち、それぞれの良さを感じ取れたか。 <input type="checkbox"/> 作曲家について調べプレゼンテーションをし、様々な作曲家や音楽に触れられたか <input type="checkbox"/> 目標に向かって練習に取り組めたか
11月～ 12月	2学期 期末 未実施	≪表現≫ 演奏発表		<input type="checkbox"/> 生活や社会の中の多様な音や音楽表現から、楽曲を選択設定し、演奏発表を行うことができたか <input type="checkbox"/> 演奏発表を通じて、音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成できたか
1月～ 3月	3学期 学年末 未実施			

# 美術

## 1 クラフトデザイン

クラフトデザインは、創造的な諸活動を通して、創造の喜びを一層深く味わい、美術を生活に生かすなど、生涯にわたって美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、独創的で個性的な表現と鑑賞の能力を高めることをねらいとしています。生活全般にわたり、形や色彩などを活用し生活の中で生きるデザインを重視します。さらに、自然や環境などを配慮しながら心豊かで夢のある生活を実現するためのデザインの働きを理解し、独創的なデザインの制作や実生活の場面での活用・改善の喜びを味わえるよう表現に取り組みます。

## 2 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

## 3 評価の観点

- 美術への関心・意欲・態度
- 発想や構想の能力
- 創造的な技能
- 鑑賞の能力

## 4 3年次の学習内容

### (1) 【デザイン】

- ア デザイン効果を考えて独創的な主題を生成し、表現の構想を練る。
- イ 主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的なデザインを追求する。

## 5 その他

- ・ 題材は、立体構成（紙）、籐デザイン工芸を行います。

第3学年

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
クラフトデザイン		2		
【到達目標】		①デザインの社会的役割や文化的意義を理解するなどして、デザインに対する見方や考え方を深めていく。 ②自然や環境などを配慮しながら心豊かで夢のある生活を実現するためのデザインの働きを理解し、独創的なデザインの制作や実生活の場面での活用・改善の喜びを味わえるよう表現に取り組む。		
【学習上の留意点】		①授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。 ②中間及び期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月～5月	1学期 中間 未実施	≪作品制作≫ クラフトデザイン「籠をつくる」  ≪鑑賞学習≫ 日本の文化に関するテーマ		<input type="checkbox"/> 、伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 制作手順や様々な編み方を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす美術文化に広く関心をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。
6月～7月	1学期 期末 未実施	≪作品制作≫ クラフトデザイン「籠をつくる」  ≪鑑賞学習≫ 日本の文化に関するテーマ		<input type="checkbox"/> 友達の作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して鑑賞の課題に取り組めたか。
9月～10月	2学期 中間 未実施	≪作品制作≫ クラフトデザイン 「テーマをもとに紙による立体構成を行う」		<input type="checkbox"/> デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できたか。 <input type="checkbox"/> 道具を適切に使い、道具の扱いについて理解できたか。
11月～12月	2学期 期末 未実施	≪作品制作≫ クラフトデザイン 「テーマをもとに紙による立体構成を行う」		<input type="checkbox"/> 生活や社会の中に心情や場をつくりだすという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 制作を振り返り、ポートフォリオを作成できたか。
1月～3月	3学期 学年末 未実施			

令和6年度 年間学習計画表 A

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
実用の書		2	なし	硬筆ノート
【到達目標】		① 丁寧で読みやすい硬筆文字の書き方を理解する。 ② 自分の名前の表札、印（1cm角）を制作してみる。 ③ 細字（写経）を使い細字に挑戦。日常の中の書を学ぶ。		
【学習上の留意点】		① ポイントごとに作品提出があります。 ② 書道ノート（A4）を作り、授業の内容をまとめる。（チェック有） ③ 中間、期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	・硬筆の学習 鉛筆、ボールペン等 ・履歴書の書き方		・普段文字を丁寧に書くことに応用できているか。 ・履歴書の文字が読みやすく丁寧に楷書で書けているか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	・篆刻 1cm角の印作り		・草稿をしっかりと作ることができたか。 ・1cm角の小さな石の中に、朱文（文字が赤く出る）で名前を入れられたか。 ・名前の線がきちんと残っているか。 ・丁寧に押印できているか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	・表札作り 10cm×20cm		・草稿をしっかりと作ることができたか。 ・彫刻刀がきちんと使えているか。 ・色付けがきちんと仕上がっているか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	・表札作り ・細字の学習		・筆ペンをつかっての様々な文字の書き方が学ぶ。 ・写経を学び趣味を広げる。
1月 ～ 3月	3学期 学年末	・細字の学習		・読みやすい手書き文字でオンリーワンになれるかも。

# 書道

## 1 実用の書

人と文字は切っても切れない関係です。実用の書では、日常生活の中で何気なく使用している鉛筆・ボールペン、そしてあらためて使う筆文字を見直してみます。また、冠婚葬祭に係ることがら、また表札作りや印作りを楽しみませんか。特に硬筆の文字を書くことを重要視します。

## 2 目標

楽しく文字に触れ学んでみる。

## 3 評価の観点

- ・文字への関心、意欲、学ぶ態度。
- ・考える力と創造力。
- ・表現する力。
- ・ノートの作成。

## 4 3年生の学習内容

- ア、硬筆（ボールペン、鉛筆等）の学習。
- イ、履歴書を書いてみる。
- ウ、篆刻（1 cm角の石）・実際に使えます。
- エ、表札作り（10 cm×20 cm）
- オ、冠婚葬祭時ののし袋の使い方。

## 5 その他

- ・課題により毎回提出があります。（欠席、公欠の場合後日提出）
- ・ノート（必ずA4）を使い、授業内容をノートに取る。（学期に一度チェック有）
- ・教科書はありません。
- ・教材は用意します。
- ・教材費を徴収します

## 観点別評価ルーブリック

教科 音楽  
科目 演奏研究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。	表現鑑賞発表提出物	時代や様式及び演奏形態等に即した表現方法や解釈があることを理解し、必要な技能を身に付けている 7割以上達成できている	時代や様式及び演奏形態等に即した表現方法や解釈があることを理解し、必要な技能を身に付けている 4割以上7割未満達成できている	時代や様式及び演奏形態等に即した表現方法や解釈があることを理解し、必要な技能を身に付けている 4割未満達成できている
思考・判断・表現	音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。	表現鑑賞発表提出物	時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏となっているか、思考判断し表現に生かす 7割以上達成できている	時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏となっているか、思考判断し表現に生かす 4割以上7割未満達成できている	時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏となっているか、思考判断し表現に生かす 4割未満達成できている
主体的に学習に取り組む態度	音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	表現鑑賞発表提出物	表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求している 7割以上達成できている	表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求している 4割以上7割未満達成できている	表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求している 4割未満達成できている



## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

美術  
クラフトデザイン

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工芸制作</li> <li>・ デザイン制作</li> </ul>	①デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できている。 ②制作手順や様々な編み方を理解できている。 ③友達の作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができている。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できている。 ②制作手順や様々な編み方を理解できている。 ③友達の作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができている。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できている。 ②制作手順や様々な編み方を理解できている。 ③友達の作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができている。 以上の項目が4割未満で達成できている。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工芸制作</li> <li>・ デザイン制作</li> <li>・ 鑑賞</li> </ul>	①伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができている。 ②生活や社会の中に心情や場をつくりだすという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組んでいる。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができている。 ②生活や社会の中に心情や場をつくりだすという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組んでいる。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができている。 ②生活や社会の中に心情や場をつくりだすという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組んでいる。 以上の項目が4割未満で達成できている。
主体的にに取り組む態度	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工芸制作</li> <li>・ デザイン制作</li> <li>・ 鑑賞</li> </ul>	①鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす美術文化に広く関心をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。 ②自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす美術文化に広く関心をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。 ②自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす美術文化に広く関心をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。 ②自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 以上の項目が4割未満で達成できている。

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

書道  
実用の書（3年生）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬筆の学習</li> <li>・篆刻制作</li> <li>・表札の制作</li> <li>・細字の学習（写経）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、文字を丁寧に書くことがどれほど受け入れられているのだろうか考えてみる。</li> <li>・文字の多様性に挑戦してみる。（篆刻、表札）</li> <li>・細字（写経）を通じて趣味を広げてみる。</li> <li>・該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。</li> </ul>
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬筆の学習</li> <li>・篆刻制作</li> <li>・表札の制作</li> <li>・細字の学習（写経）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の多様性について学習してみる。</li> <li>・生活の中における文字の及ぼす影響について考えてみる。</li> <li>・町中の看板、ポスターの効果。</li> <li>・写経を通して趣味を広げてみる。</li> <li>・該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。</li> </ul>
学習主体に取的に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造してゆく態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬筆の学習</li> <li>・篆刻制作</li> <li>・表札の制作</li> <li>・細字の学習（写経）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題ごとに自己評価シートの作成。書道ノートの作成（学期末に感想文も記載し提出）。課題作品の毎回提出（含公欠、欠席時）。積極的な授業への参加（添削、挨拶、発言、居眠り、書道用具の忘れ物）。左利きの生徒への配慮。出欠席の割合（実技教科）。グループ内での積極的参加、協力、発言。</li> <li>・該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。</li> </ul>

# 大宮北高校 第3学年の英語授業

現在、英語は国際語としての地位を非常に勢いで確立しつつあり、それに伴って英語教育の在り方や入試制度も時代とともに変化している過渡期にあります。そんな背景を鑑みて、大宮北高等学校の英語の授業では、従来の訳読（説明中心）の「紹介型」ではなく「技能習得型」の授業で、「実際に使える英語力」を3年間を通し鍛えていくこと、そして、生徒一人ひとりの将来の自己実現の力になる「人間力」の育成を目指します。

授業では、「英語でコミュニケーションが取れるようになりたい」、「英語を理解できるようになりたい」というみなさんの期待に応え、2年間で築いた基礎を踏まえ、演習を中心とした発展的な授業を行なっていきます。

## 3 学年英語科 指導目標

今年度の3学年の英語科が掲げる目的は以下の3つの目標に則り、4技能5領域（聞くこと・読むこと・やり取り・発表・書くこと）をバランスよく育み、グローバルリーダーとなるために必要な「実際に使える英語力」と将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成することです。

1. 読む・聞く・話す・書く等の実際のコミュニケーションにおいて、これまで築いた基礎的な知識を、適切に活用することのできる技能を育むこと。
2. 読んだり聞いたりした情報や考えの概要や要点、書き手や話し手の意図などを的確に理解し、論理的に表現することのできる力を育むこと。
3. 英語を主体的に使ってコミュニケーションを取ろうとする態度を向上させるとともに、自らに合った学習方略を選択し、自律的に学ぶことのできる学習者を育み、支援すること。

## 近年の入試傾向

2021年からセンター試験の代わりに大学入学共通テストが導入され、英語の試験の傾向も大幅に変わりました。リーディングでは、文法や発音・アクセントの問題が削られる代わりに、長文のテーマや形式が多様化し、単語量と図・グラフ・イラストが増加しました。また、リスニングは、センター試験では50点だったものが倍の100点となり、問題の約7割が1回しか放送されない問題へと変化しました。2024年度以降の英語検定2級のライティングには、文章の要点を簡潔にまとめて記述する「要約」の問題が追加される予定です。これらの入試傾向に対し、ただ単に「大学受験英語は難化している」と捉える人もいますが、それ以上に「知識の定着を前提とした活用力」「限られた時間の中で膨大な量処理する力」を問う問題が増えたという方が正しいでしょう。

そんな大学入試に臨む67期のみなさんが身につけなければいけないのは、「活用することを前提とした基礎力」と「情報処理能力」です。昨年までの2年間で築いた基礎を活用する方法、時間内に要点をつかみ正答を導き出すノウハウを、授業やその復習を通じて身に付けていきましょう。

## 学習のポイント

### 1. 英語は単語学習が9割

これからの1年間、365日、英単語の学習を継続させることが、英語力向上の最短ルートです。5分からでもいいので、英単語の学習をルーティン化してください。単語力が向上すると、自ずとリーディング・リスニングの理解度も向上するはずです。「わかってはいるけれど、なかなか習慣化できない…」という人のために、以下のコツの中で取り入れられそうなものからチャレンジしてみてください。

- ・空白の「時間」「場所」にルーティンを入れ込む  
(例)「朝に教室で」「通学時間に電車で」「放課後に自習室で」「夕食前にリビングで」
- ・やる気が出るのを待つのではなくテクノロジーに頼り、意欲をコントロールする  
(例) リマインダー、アラーム、Study Plus、単語学習アプリ
- ・1日で全部覚えようとせず、忘れる前提で1週間同じ範囲を繰り返し確認する  
×1日50個完璧に覚える → ◎忘れる前提で1週間に200語確認し続ける

## 2. Input と Output の黄金比率は3 : 7

限られた時間の中で、効率的に結果を出す学習法とは、どんなものだと思いますか？

「英単語帳を眺める」「スタサブの解説動画を視聴する」「参考書を読む」だけの学習をどれだけ長時間行っても、結果にはなかなか結び付きません。コロンビア大学で行われた実験の結果、人がものを覚えるための黄金比は「Input 3割 : Output 7割」だと判明しました。「問題を解く」「人に説明する」「質問する」「テストする」などの Output の活動を通じて、自分の知識を整理してどう活かそうか考え、その過程の中で記憶をするためです。

「Input ができていないのに、Output 中心で学習を進めることに不安を感じる」という人もいるかもしれませんが、Output をすることは自分に定着していないポイントを明確化し、次の一步を考えることに繋がります。Output 中心の学習の中で、ポイントを絞って Input の活動を入れ、2つのバランスを保ちながら学習するよう心がけてみてください。

## 3. 精度と速度を上げるリーディング

共通テストや国公立2次、私大、どれをとっても「限られた時間の中で膨大な量処理する力」を問う問題が増えている傾向を受けて、文章の要点を読み取り正答する「精度」と時間内に処理する「速度」を向上させることが大切になってきます。以下のことに重点を置き、「精度」と「速度」を高める学習を実践していきましょう。

精度：答えの根拠を明確にすること、文章の全体の主旨と詳細を掴むこと、自分の間違えた問題の分析

速度：必ず問題を解く際には時間を測り、WPM (Words Per Minute) 120 を目指すこと ※R5 共テ 6300 語

リード文や設問を事前に見て、ポイントを絞って本文を読むコツを掴むこと

## 4. 「慣れ」が勝負のリスニング

リスニングが苦手、なかなか伸びないという人がいますが、その原因が何なのか、改めて振り返ってみましょう。そもそも単語・熟語の基礎が身についていない人は英単語の学習をルーティン化することが先決ですが、そうでない人は以下のことに「慣れる」ことが重要になります。演習する際に意識してみましょう。

- ・英語を聞くこと（流し聞きでも生活の一部に取り入れてみよう）
- ・英語を英語のまま理解すること
- ・問題形式
- ・事前に短時間で設問を確認し、要点やキーワードを確認すること
- ・展開を予想すること

また、復習する際には必ずスクリプトを確認し、回答の根拠になる箇所や要点をつかむのにポイントとなるフレーズを見つれたり、シャドーイングなど自分で声に出すことで「慣れ」に繋げることが大切です。

## 5. 自己分析が次のステップへの最短ルート

今年度はこれまでと比べ、演習が中心の授業となるほか、校内での模試や過去問演習などの機会が増えます。演習への取り組み方以上に大切なのが、演習後のやり直し・振り返り・自己分析です。ただ、分析をする際に「不正解だった問題」だけではなく、「たまたま正解だった問題」も振り返りの対象に入れてください。今回は勘で、迷った結果、なんとなく正解できた問題は、入試本番でも正解できる確証がないからです。そして、「不正解だった問題」「たまたま正解だった問題」にどんな問題が多いか、その中で難易度が低かった問題はどの問題なのかを確認し、次の学習目標を定めることが、限られた時間の中で結果を出す最短ルートです。

## 1. 目標

- ・日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、論理的に話したり書いたりして相手に伝える発展的な技能を身に付ける。
- ・アウトプットを中心とした言語活動を通して、話すこと（やり取り・発表）・書くことの技能をバランスよく伸ばすとともに、自ら主体的に英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。
- ・実践的な演習を行うことにより、生徒全員の希望進路実現を目指すとともに、将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成する。

## 2. 使用教材と用途

Textbooks			Weekly Test	
EARTHRISEⅢ Advanced	共通テスト リスニング 分野別 10min.	共通テスト リスニング TRY 30	Vintage ランダム問題集 Aviator 450	英文法・語法 Vintage
				
1 学期 教科書	1 学期 冒頭リスニング教材	2 学期 共通テスト対策	1 学期 文法 問題演習	自主学習用教材
週 1 回程度使用予定。 付属の WORKBOOK あり。 WORKBOOK は提出あり。	共通テスト傾向のリスニング 教材。 毎授業の冒頭に使用予定。	共通テスト形式の問題集。 授業で演習・解説予定。 ※購入は新版発行後です。	Vintage のランダム問題集。 週 1 回程度使用予定。 Weekly Test 出題予定。	Aviator 450 の復習に用いる 教材。 バイブルにしてください。

## 3. 指導計画

	教材	EARTHRISEⅢ Advanced	Vintage ランダム問題集 Aviator 450	共通テスト リスニング 分野別 10min.	共通テスト リスニング TRY 30
1 学期	中間	L1：メールを書く L4：意見を述べる	Day 1 ～ Day 6	Part I（傾向確認編） 第 1 回～第 9 回	
	期末	L7：イラストを説明する L9：申込書を作成する L11：要点を整理する	Day 7 ～ Day 12	Part II（実践演習編） 第 10 回～第 19 回	
2 学期	中間				第 1 回～第 3 回
	期末				第 4 回～第 6 回






※3 学期は特編授業となるため、過去問等を使用して進路実現を見据えた実践演習を行う予定です。

※Weekly Test の範囲や日程等の詳細はまた後日お知らせします。

## 1. 目標

- ・日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことの要点や意図を掴み、その内容を踏まえて論理的に話したり書いたりして相手に伝える技能を身に付ける。
- ・総合的な言語活動を通して、4技能5領域の英語運用能力をバランスよく伸ばし、実際に使える英語力を育む。
- ・実践的な演習を行うことにより、生徒全員の希望進路実現を目指すとともに、将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成する。

## 2. 使用教材と用途

Textbooks				Weekly Test
Heartening III English Communication	共通テスト 読解トレーニング	SKYWARD CLOUDS 2nd Edition	共通テスト リーディング TACKLE 40	英文で覚える 英単語 ターゲット R
				
1 学期 教科書	1 学期 冒頭リーディング教材	1 学期 リーディング教材	2 学期 共通テスト対策	自主学習用教材 英単語帳
週2回程度使用予定。 付属の WORKBOOK あり。 WORKBOOK は提出あり。	共通テスト傾向の リーディング教材。 毎授業の冒頭に使用予定。	私大・国公立2次を見据えた 長文読解の問題集。 授業で演習・解説予定。	共通テスト形式の問題集。 授業で演習・解説予定。 ※購入は新版発行後です。	文章と一緒に覚えることがで きる英単語帳。 Weekly Test 出題予定。

## 3. 指導計画

	教材	Heartening III English Communication	SKYWARD CLOUDS 2nd Edition	共通テスト 読解トレーニング	共通テスト リーディング TACKLE 40
1 学期	中間	L1: 対話 記録文 L3: インタビュー 論証文	Unit 1 ~ Unit 10	Level 1 Training 1 ~ 10	
	期末	L5: 対話 説明文 L7: ディベート 説明文	Unit 11 ~ Unit 20	Level 2 Training 11 ~ 20	
2 学期	中間				第1回～第5回
	期末				第6回～第10回

※3学期は特編授業となるため、過去問等を使用して進路実現を見据えた実践演習を行う予定です。

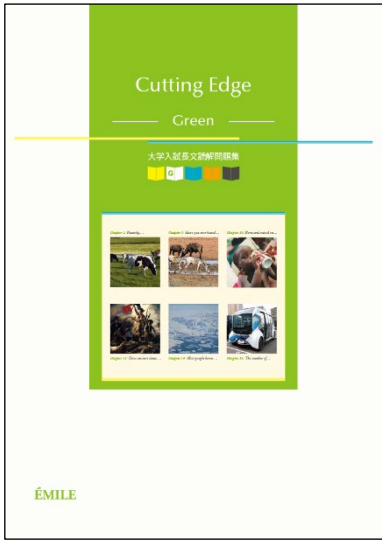
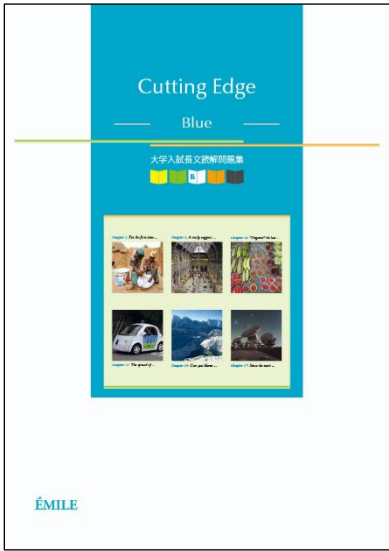
※Weekly Test の範囲や日程等の詳細はまた後日お知らせします。



## 1. 目標

- ・日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことの要点や意図を掴み、その内容を踏まえて論理的に話したり書いたりして相手に伝える技能を身に付ける。
- ・実践的な演習を行うことにより、生徒全員の希望進路実現を目指すとともに、将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成する。

## 2. 使用教材と用途

Textbooks	
Cutting Edge — Green — 大学入試長文読解問題集	Cutting Edge — Blue — 大学入試長文読解問題集
	
1 学期 私立大学対策 リーディング教材	2 学期 私立大学対策 リーディング教材
<p>私立大学入試を見据えた長文読解の問題集。授業で演習・解説予定。</p> <p>Green は共通テスト・標準の私大と同様のレベル。</p> <p>Blue は国公立大学2次・有名私大・難関私大のレベル。</p>	

## 3. 指導計画

	教材	Cutting Edge — Green — 大学入試長文読解問題集	Cutting Edge — Blue — 大学入試長文読解問題集
1 学期	中間	Chapter 1 ～ Chapter 9	
	期末	Chapter 10 ～ Chapter 18	
2 学期	中間		Chapter 1 ～ Chapter 9
	期末		Chapter 10 ～ Chapter 18

※3 学期は特編授業となるため、過去問等を使用して進路実現を見据えた実践演習を行う予定です。

教科 外国語（英語）  
科目 英語コミュニケーションⅢ 論理表現Ⅲ 英語特講

		Filter 2 (観点)						
		知識・技能 (Knowledge & Technics)	思考・判断・表現 (Critical thinking)	主体的に学習に取り組む態度 (Attitude)	学習活動	A：「十分満足できる」 Over 80%	B：「おおむね満足できる」 80% - 40%	C：「努力を要する」 Under 40%
F i l t e r  ( S k i l l s )	読むこと	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語の文章を正確に読解することができる。 現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を、辞書などを使わずに読解することができる。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを文章からの的確に読み取り、理解することができる。		小テスト 定期考査 課題考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
		R K	R C					
	聞くこと	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語での説明文や会話文を適切に聞き取ることができる。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に聞き取り、理解することができる。 自然な速さの標準的な英語で話されていれば、母語話者同士の会話の要点を理解することができる。 トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。		小テスト 定期考査 課題考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
		L K	L C					
	話すこと ②発表	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語で発表したり、会話したりすることができる。	読んだり聞いたりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを、適切に話すことができる。 自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論することができる。 また、ディベートなどにおいて、論拠を並べ自分の主張を明確に述べることができる。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話すことで表現しようとしている。 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	パフォーマンステスト 提出物 行動観察等	パフォーマンステストや授業中での発表等において、指定された評価基準に80%以上程度当てはまる。	パフォーマンステストや授業中での発表等において、指定された評価基準に40%以上80%未満程度当てはまる。	パフォーマンステストや授業中での発表等において、指定された評価基準に40%未満程度当てはまる。
		S K	S C	S A				
	書くこと	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語で文章を書くことができる。 幅広い語彙や複雑な文構造をある程度使って、エッセイやレポートなどを書くことができる。	読んだり聞いたりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを、適切に書くことができる。 情報や議論を整理しながら、それに対する自分の考えの根拠を示した文章を書くことができる。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを書くことで表現しようとしている。 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	定期考査 課題考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
		W K	W C	W A				



## 9 家庭科（専門）

### 保育基礎

#### ①学習の意義・目的

保育の意義や方法、子供の発達と生活の特徴、子供の福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付けます。子供一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成します。

#### ②授業の受け方

欠席せず、忘れ物をせず、私語を控え、提出物の期限は守る。

#### ③学習方法

日ごろから、子供や子供のいる生活に興味・関心を持って過ごしましょう。

保育技術は思考・判断・表現・意思疎通・創造・想像などの力を発揮し意欲的に取り組みましょう。

保育者（保育を担う職業人）の立場になって学習するよう心がけましょう。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
保育基礎		2	保育基礎 実教	
【到達目標】		別ページのループリックの目標参照		
【学習上の留意点】		製作物、実技、講義にしっかり取り組みましょう。		
月	テスト	進度（単元）		製作物・実習等（予定）
4月 ～ 5月	1学期 中間	1章 子どもの保育 4章 子どもの文化		<input type="checkbox"/> なまへの絵本をつくろう <input type="checkbox"/> 音楽・リズム表現技術 <input type="checkbox"/> 造形表現技術 <input type="checkbox"/> 言語表現技術
6月 ～ 7月	1学期 期末	2章 子どもの発達		<input type="checkbox"/> 家庭看護技術 <input type="checkbox"/> 各技術の応用作品 <input type="checkbox"/> 夏休みの課題 *講義室・実習室の整備
9月 ～ 10月	2学期 中間	3章 子どもの生活		<input type="checkbox"/> 応用作品（共同作品） <input type="checkbox"/> 子育て中の調理
11月 ～ 1月	2学期 期末	5章 子どもの福祉		<input type="checkbox"/> 子どもに関する研究（レポート課題）と発表  *講義室・実習室整備

※ 実習費（2千円程度）を徴収します。（最初の授業で連絡します）

※ 定期テストは実施しませんが、授業中に実技テストや小テストをします。（必ず受けること）

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

専門家庭  
保育基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査（実技含む）</li> <li>・ 実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当問題80%以上程度の得点率</li> <li>・ 安全や衛生に十分留意し工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当問題50%以上80%未満程度の得点率</li> <li>・ ねらいを理解し的確に進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当問題50%未満程度の得点率</li> <li>・ 進め方に改善が求められる。</li> </ul>
思考・判断・表現	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習（レポート含む）</li> <li>・ 各種ワーク</li> <li>・ 作品製作</li> <li>・ ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことを正しく解釈し、さらにその知識を活用し、よりよく表現できている。</li> <li>・ 具体例を想像するなど他の生活場面等で活用できる程度に習得している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習で理解したことを表現できている。</li> <li>・ 問題意識を持って習得に努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の理解に不十分なところが見受けられ、改善が望まれる。</li> <li>・ 表現が不十分で伝わりにくいところがある。</li> </ul>
学習主体的に取り組む態度	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種自己評価</li> <li>・ ノート</li> <li>・ 実習や作品への取り組み</li> <li>・ 各種レポート</li> <li>・ 行動観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画性をもって着実に各種課題に取り組んでいる。</li> <li>・ 単元ごとに、気づき（発見）や疑問を見いだし後の課題としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画性をもって各種課題に取り組んでいる。</li> <li>・ 学習したことを整理できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種課題に取り組むにあたって計画性が求められる。</li> <li>・ 学習したことを整理することに工夫が求められる。</li> </ul>

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目

専門家庭  
保育基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査（実技含む）</li> <li>・ 実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当問題80%以上程度の得点率</li> <li>・ 安全や衛生に十分留意し工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当問題50%以上80%未満程度の得点率</li> <li>・ ねらいを理解し的確に進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当問題50%未満程度の得点率</li> <li>・ 進め方に改善が求められる。</li> </ul>
思考・判断・表現	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習（レポート含む）</li> <li>・ 各種ワーク</li> <li>・ 作品製作</li> <li>・ ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことを正しく解釈し、さらにその知識を活用し、よりよく表現できている。</li> <li>・ 具体例を想像するなど他の生活場面等で活用できる程度に習得している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習で理解したことを表現できている。</li> <li>・ 問題意識を持って習得に努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の理解に不十分なところが見受けられ、改善が望まれる。</li> <li>・ 表現が不十分で伝わりにくいところがある。</li> </ul>
学習主体的に取り組む態度	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種自己評価</li> <li>・ ノート</li> <li>・ 実習や作品への取り組み</li> <li>・ 各種レポート</li> <li>・ 行動観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画性をもって着実に各種課題に取り組んでいる。</li> <li>・ 単元ごとに、気づき（発見）や疑問を見いだし後の課題としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画性をもって各種課題に取り組んでいる。</li> <li>・ 学習したことを整理できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種課題に取り組むにあたって計画性が求められる。</li> <li>・ 学習したことを整理することに工夫が求められる。</li> </ul>

## STEAMS TIME Ⅲ（普通科）

### （１）学習について

２年生で行った課題研究の内容をさらに煮詰めて、最終的には日本語で論文を作成してもらい、各ゼミラボで論文集を作成・保存する予定です。この過程により、授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果をまとめることにより、次なる課題研究に向けた基礎固めをめざします。

この内容からも分かるように、課題研究は、今後みなさん自身が主体的にやっていくべきものとなります。

### （２）令和６年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
STEAMS TIME Ⅲ		1	各教科の教科書	
【到達目標】		① 各自が設定した研究テーマについて、最終発表原稿を作成する。 ② 各自の研究成果の原稿作成を通して、自身の課題研究について整理する。		
【学習上の留意点】		① 各自の興味関心に応じて研究テーマを設定する。 ② 主体的な態度で研究活動に臨む。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期	研究発表のまとめ論文の作成		<input type="checkbox"/> 研究発表の内容を再度確認することができたか <input type="checkbox"/> 論文を作成することができたか
6月 ～ 7月	1学期	論文集の作成		<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースが確認できたか。
9月 ～ 10月	2学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる		<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースが確認できたか
11月 ～ 12月	2学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる		<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。
1月 ～ 3月	3学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる		<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。

## STEAMS TIME Ⅲ（理数科）

### （１）学習について

２年生で行った課題研究の内容をさらに煮詰めて、最終的には英文の発表ポスターを作成してもらい、英語にてポスターセッションを行ってもらう予定です。この過程により、授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上もめざします。

この内容からも分かるように、課題研究は、みなさん自身が主体的にやっていくべきものとなります。

### （２）令和６年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
STEAMS TIME Ⅲ		2	各教科の教科書	
【到達目標】		① 各自が設定した研究テーマについて、最終発表原稿を作成する。 ② 各自の研究成果の発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。		
【学習上の留意点】		① 各自の興味関心に応じて研究テーマを設定する。 ② 主体的な態度で研究活動に臨む。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期	研究発表のまとめ英語論文の作成		<input type="checkbox"/> 研究発表の内容を再度確認することができたか <input type="checkbox"/> 論文を作成することができたか
6月 ～ 7月	1学期	英語ポスターの作成  英語ポスター発表会		<input type="checkbox"/> 研究内容を英語のポスターにまとめることができたか。 <input type="checkbox"/> ポスターが他者にも分かりやすくまとめられているか。 <input type="checkbox"/> 研究発表の内容を他者が理解できるよう発表することができたか <input type="checkbox"/> 質問に対して、自分の言葉で説明できたか。
9月 ～ 10月	2学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる		<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースが確認できたか
11月 ～ 12月	2学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる		<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。
1月 ～ 3月	3学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる		<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。

## 1 学期ルーブリック

	A	B	C	時期	内容
知識・技能	研究内容について新たな考察を行い、より深いまとめを行うことができた。	研究のまとめやプレゼン準備を適切に行うことができた。	研究のまとめやプレゼン準備において不備がある。	6～7月	発表会準備
思考・判断・表現	発表に必要な要素を精選し、聞き手を引き付けることができる。 (理数科) 質問に対して適切な英語で返答し、相手に理解させることができる。	研究全体を通して明らかになったことを発表している。聞き手を意識した工夫が見られ、質問にも適切に答えられる。 (理数科) 聞き手が理解できる内容、速度の英語で伝えることができる。	発表の際に必要な要素が選べず、研究の概要を羅列して説明している。聞き手を意識することができていない。 (理数科) 英文のメモを読んでいるだけの状態である。	1 学期末	発表会
主体的に学習に取り組む態度	予定したまとめが終わり、より聞き手を引き付ける方法を模索することができる。	予定したまとめやプレゼンを完結させることができる。	まとめやプレゼン準備が途中で終わってしまっている。	1 学期末	進捗度

## 2 学期ルーブリック

	A	B	C	時期	内容
知識・技能	大学入学共通テストレベルの問題が7割以上解けるレベルの学力が身に付き、大学個別試験の対策も進んでいる。	大学入学共通テストレベルの問題が6割解けるレベルの学力が身につけている。	大学入学共通テストレベルの問題に対応しうる学力が身につけていない。	2 学期末	
思考・判断・表現	自分の強み弱みと各大学の試験科目を踏まえ、自分に必要な学習に力を入れることができる。	大学入試に向けて自分に必要な学習方法を考えることができる。	大学入試に向けて自分に必要な学習が定まっていない。	9月	
主体的に学習に取り組む態度	自分の志望校の入試問題の傾向を研究し、その対策をすることができる。	主体的に大学入試問題研究に取り組むことができる。	与えられた問題を解いているだけの状態である。	10～11月	

## 3 学期ルーブリック

	A	B	C	時期	内容
知識・技能					
思考・判断・表現					
主体的に学習に取り組む態度					